

2 0 2 2 年度事業報告  
(2023 年 5 月 25 日 理事会議決)

社会福祉法人 宮城厚生福社会

はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大から3年が経過しました。法人内でも新型コロナウイルス感染症による感染発生により、事業活動・経営上ともに大きな影響を受ける年度となりました。とりわけ、介護・障がい事業では減収の影響を大きく受けたほか、入居事業では入院できないケースもありました。改めて入院体制の確保と収益面で福祉事業継続を可能とする制度が必要であることを痛感しました。法人内では常務会・管理部間での情報共有を行い、日々の感染対策と収束に向け対策を取り、職員の奮闘で乗り越えてきました。介護事業でのBCPは感染症について概ね策定されていますが、見直しが必要です。

2024年度に向けた介護報酬改定の情勢では、多くの改悪は見送られる見通しとなりました。福祉ウェブでの学習会に当法人から100名が参加したことなど、当法人での運動を進める上でも全職員を対象とした学習を進め、大きな力になりました。管理者会議や各事業所の会議で位置付けて取り組んできました。介護・保育・障がい・児童と私たちが実施する事業は、近年処遇改善の施策が進められていますが、いまだに給与水準は低い他、新たな制度への対応が次々と求められ厳しい経営環境となっています。

法人は2022年度から2026年度の5か年の中長期計画を定め、必要利益30百万円に対し当初予算は+5百万円の予算でした。各部門で経営改善・稼働改善を進め、特に職員参加の経営や管理者・事務員が正しく経営状況を把握でき、現場に伝え実践する「全職員参加の経営」を重視してきました。各部門で稼働の改善を進めましたが、物価高騰・光熱水費の高騰の影響が約40百万円と大きく受ける中、節電などをはじめ法人全体で全職員参加の経営を進め、年度末決算では関連法人からの寄付を除き+51百万円としました。介護事業では人員採用を進め、十符風の音、田子のまちの短期入所事業の再開をさせた他、一部事業所を除き稼働改善も進みました。保育事業では年度当初は予定児童の受け入れが出来ませんでした。年度途中で受け入れを進め、安定した経営を維持出来ました。2022年の出生数が80万人を下回り、当法人の保育園でも園児確保が困難になっています。選ばれる保育所となる取り組みはこれまで以上に必要になっています。各園で全職員会議での議論を開始し具体化をしています。障がい事業では、管理運営の改善を進め、経営改善を進めてきました。しかし、管理運営の弱点から新たな退職を生み、担当常務が直接事業所運営に当たることとしました。理念に基づく実践と職員集団作りを進め、経営の早期改善へ向けて法人を挙げて取り組む方針としています。

職員育成では普段のより良い実践を基礎として、その実践を交流する機会として法人学術運動交流集會にて多くの演題発表がありました。それぞれの実践を共有し、法人の理念を共有する場としても大きな力と職員への刺激になりました。また、制度教育の参加率も改善しました。

中長期計画に基づき「育成・事業活動・経営・運動を一体的に進める」という方針の下、あらゆる活動の中に職員育成の観点を持ち、取り組みを進め職員の定着と育成、経営改善、

運動とあらゆる面で前進の傾向を感じる年度となりました。経営環境が非常に厳しい中で

2022年度寄せられた苦情は33件と前年度24件に比べ、申し出の数は平年並みとなってきています。損害賠償などを求められるケースもあり法人で相談を受けながら対応を進めています。申し出頂いた苦情は全て今後に活かすために法人全体で共有化し、今後の丁寧な援助に当たっていくための教訓とします。

#### 2022年度の重点課題に対する総括

1. **管理者が中心となり、理念に基づく実践を追求した事業運営を進めます。管理部・職責者を中心とした職場作りと制度教育への参加率100%をはじめ、学び成長する機会の保障・職員育成を重視します。理事会・各事業所管理部は必要な政策立案を行い、取組みの具体化の提起を行い実践します。**

制度教育の参加率は76%（2021年度62%、2020年度44%）と参加率は前進しました。引き続き受けられなかった職員へのフォローを進め、100%の受講を目指します。法人・県連学術運動交流集会や他団体の研修での実践報告、外部研修への参加も各事業所で取り組んできました。

2. **法人全体、各部門、事業別に借入金償還や設備投資が出来る資金の確保を行える経営を追求します。中長期計画に基づく必要利益3千万円の達成に対し、介護±0万円、保育+3千万円、障害±0円を目標とします。目標稼働を事業ごとに設定し、到達に向けた進捗の把握と必要な対策を進めます。**

法人全体では51百万円、介護△4百万円、保育+93百万円、障害△6百万円の到達となりました。介護事業では事業再開と稼働の安定が進みましたが、光熱水費・物価の高騰の影響を最も受けた事業となりました。障がい事業では運営管理の改善を進め、改善方向を作りましたが目標は到達できませんでした。本格的な改善に向けては、来期に持ち越されました。

3. **部門ごとの目標利益確保が出来る経営を、2023年の期間目標を持ち取り組みます。事業再開など必要な経営的対策を進めます。乳銀杏保育園の老朽化に伴う設備投資、十符・風の音の大規模修繕計画を策定します。**

急速な少子化、物価・光熱水費の高騰などにより経営の見通し・展望を見通すことが非常に困難な情勢となっています。乳銀杏保育園は建替えではなく大規模修繕・改築にて進める方針としています。十符・風の音の大規模修繕は空調設備工事が完了したものの、2022年3月に起きた地震による建物に関する新たな被害が出ています。

4. 私たち社会福祉の働く土台である憲法25条を守ります。社会保障運動を重視し、平和で人々が幸せに暮らせる社会の実現に向けて、広範な団体・個人と共同の運動を進

めます。

法人内では全職員学習を位置付けて取り組んできました。また、現場から見える経営の課題や事業活動上の困難などを社会的に発信する取り組みも行ってきました。参加する各団体の運動、福祉ウェブ実行委員会・介護フォーラムなど他団体との共同の取り組みを進めてきています。

**5. 常務会、執行管理者会議、各部・委員会を本部機能として位置づけ、管理機構をさらに強化します。労務管理やコンプライアンス等に係る法改正への対応を進め、管理部・担当者の力量の向上を行います**

本部事務局の体制上の課題から、労務管理担当の体制が非常に厳しいものとなっています。各事業所で多様な働き方が生まれており、法人の労務既定の見直しに着手を始めています。事務会議などで徹底を図ってきました。今期は障がい事業の内部監査を行いました。それ以外の各部門でもコンプライアンス対応は課題が残されており、各事業の管理者会議にて改善に向けた討議を進めます。

**6. 採用活動を引き続き強化し、採用目標では介護職15名、保育士6名とします。管理者研修・中間管理者研修を充実させ、ます。法人の理念と歴史を振り返り、世代継承を図ります。**

介護職は目標の15名を採用し、事業再開につながりました。保育士は5名の採用となりました。法人の歴史については法人制度教育以外での取り組みは行うことができませんでした。初任管理者研修の実施、中間管理者研修は中間管理者研修委員会を中心に内容を検討し、チーム作りの研修を進めています。

## 介護事業

### 【2022 年度総括】

今年度は、新型コロナウイルスや社会情勢の影響を大きく受けた1年となりました。

新型コロナウイルスは、感染対策に力を入れ取り組んできましたが、7月に宮城野の里ショートステイで利用者6名、職員4名のクラスターが発生しました。在宅サービスでの感染対策の難しさを痛感させられる出来事でした。デイサービスも利用者、家族の感染や濃厚接触者となり休むケースや予防のため利用を控えるケースも多く、なかなか稼働が上がらない状況が続いています。田子のまちでも入居者が感染しています。入院もできず施設での留め置きとなり体調が悪化した入居者もいました。職員やその家族の感染も多く施設運営にも苦慮することとなりました。

各事業所の努力で収入は上がっていますが、光熱水費と物価高騰の影響を受け、経営は非常に厳しい状況です。特に電気代は値上がりが続いています。節電に取り組み使用量は削減していますが料金は増加しています。老朽化している施設もあり今後は大規模修繕が必要となります。まずは赤字を圧縮できるよう経営改善が大きな課題です。

7月にミャンマーから技能実習生3名を田子のまちで受入ました。言葉の壁や文化の違いなどお互いに戸惑うこともありますが、日本の介護を学び自国へ持ち帰りたいという強い思いがあり、一生懸命に取り組んでいる姿は職員へも良い影響を与えています。

職員の確保も進み、風の音ショートステイ10床、田子のまちショートステイ10床の再開、デイサービスセンター木の実の土曜日開所をすることができました。目標の稼働に届いていない施設もありますが、事業を軌道に乗せるため今後の取り組みが重要です。

これからも各事業所で、管理者や職責者を中心に予算管理、進捗管理を行い、必要利益に基づく予算管理を行い、来年度の介護報酬改定も見据えて、職員と一緒に経営改善に取り組んでいきます。

### 【重点課題に対する総括】

#### ①民医連綱領、法人理念に基づき、誰もが安心して暮らせる地域の拠点を目指します

制度改悪に対し、戦いと対応の視点で社会保障運動へ取り組みます

居宅介護支援事業所や地域包括支援センターと協力し、地域の状況、利用者の声を発信できるように取り組みます

各事業所で社保委員会や職責者が中心となり学習を行い、職員の理解を深めるための取り組みを行っています。入居者、利用者家族にも協力をいただき、署名数も増加しました。

コロナ禍で外部での活動が減り、地域の状況も分かりづらくなりましたが、生活に困難を抱えている入居者、利用者、家族の声に耳を傾け、その実態を発信していく活動にこれからも取り組みたいと思います。

#### ②すべての事業所で必要利益に基づく予算管理を行います

**予算執行のために稼働を管理します**

**収入と支出のバランスを考慮します**

**管理者、職責者が中心となり取り組みます**

各事業所で管理者・職責者が中心となり、職員と一緒に経営改善に取り組みました。その結果、収入は増加しましたが、新型コロナウイルスと物価・光熱水費の高騰の影響が経営に大きなダメージを与えました。今後も必要利益に基づく予算管理、進捗状況を管理し、重要課題として経営改善に取り組みます。

### ③入居部門

**特養の稼働を安定できるよう取り組みます**

**退居から入居までの期間を短縮できるよう取り組みます**

特養は安定した稼働で推移しています。先を見越した判定委員会の開催などスムーズに入居へつなげられた結果です。しかし、待機者は減少しています。近隣に特別養護老人ホームやサービス付き高齢者住宅などの施設も増え、サービスが競合しています。今後の対応について考慮する必要があります。

### ④在宅部門

**デイサービスセンター木の実の土曜日開所と定員5名増を目指します**

**デイサービスセンターくりこまの里Ⅱ型の稼働を改善します**

デイサービスセンター木の実は、10月に土曜日の開所ができました。曜日により利用者にはばらつきはありますが、稼働は上がってきています。定員増加の課題は引き続き取り組みます。

デイサービスセンターくりこまの里Ⅱ型の稼働は改善していません。営業などに取り組んでいますが、なかなか成果が上がらない状況です。引き続き職員の力も借りて利用者増に取り組みます。

### ⑤職員確保と育成

**適切な人員配置を検討し、早急に補充ができるよう取り組みます**

**職員育成のため新しいキャリアパスを作ります**

**給与改定の準備をすすめます**

各事業所で適切な人員配置について検討が必要です。経営にも直結する課題として今後、取り組む必要があります。

キャリアパス面談シート（自己評シート）をはじめて使用し職員面談を実施しました。一定の評価基準として活用し、職員育成に取り組んでいきたいと思っております。

給与改定はまだ議論できていません。

### ⑥2023年度までに休止事業所の再開を目指し、人員確保と各拠点での討議と準備をすすめます

今年度は、風の音と田子のまちのショートステイ各10床を再開しました。今後は、田子のまちショートステイ10床とサテライト史1ユニット10床の開所に向けて取り組みます。

## 保育事業

### 【2022年度の総括】

2022年度は管理者の交代が複数園であり、管理者会議等で集团的に討議することを特に大事にしてきました。また、職員育成指針に基づき、法人主任会議や中間管理者研修、中堅職員研修などを通して、リーダー的職員の育成に重点を置いて取り組みました。保育園間の人事交流も行い、職場の活性化や職員の成長につながっています。乳銀杏保育園の建替えについては、2023年度の仙台市保育所等老朽化施設対策整備事業への応募を検討しましたが、資材高騰などで費用面での折り合いがつかず断念となりました。

経営については、各園で年間を通じた定員の充足を目指して、現場職員と相談しながら対応をすすめました。岩切たんぼぼ保育園では人員配置をして1・2歳児クラスを再開し、開所以来初の定員充足が目前になっています。傾向としては、少子化や1歳までの育休取得広がりにより0歳児の入所希望の減少、こども園への移行希望増加による幼児クラスの欠員が目立っています。地域の状況やニーズをつかみながら、法人理念に基づいた保育の特徴をアピールし入所児童を確保していくことが必要です。

### 【重点課題】

- ① 子どもたちの笑顔があふれ安心して預けられる保育所づくりをすすめます。また、保育制度改善等の活動に取り組みます。
  - ・保育制度の学習や署名活動に取り組みました。保護者へのアピールに取り組んだ園も複数ありました。保育士の配置基準の問題が報道等でもとり上げられる中、引き続き運動を広げていく必要があります。
- ② 法人理念、保育理念、民医連綱領に基づき「子ども一人ひとりの人権を尊重し、仲間の中で育ち合う」保育を行います。
  - ・各園で理念と実践を結び付ける学習や実践検討に取り組みました。法人の全体研修や中堅職員研修などを通して実践交流をすることができました。
- ③ 地域の保育ニーズに応え、保護者支援や地域の子育て支援等に自治体と連携して取り組みます。
  - ・各園で日常的な保護者支援を行うとともに、自治体や関係機関と連携し、特別支援保育や要保護対象家庭の支援などに取り組みました。貧困や子育て家庭の孤立化などの問題が見えにくくなっている状況をふまえた積極的な取り組みが求められます。
- ④ 保育理念や子どもの発達を学び実践できるように、保育を集团的に討議し、保育内容の向上に努めます。
  - ・各園で職員会議や総括会議等での学習や実践検討を行いました。職員集団の課題をふまえた研修計画を作成して研修や学習を行えるように、法人主任会議での情報交換などを重視しました。

⑤ キャリアパス制度に基づく研修をすすめ、職員が役割意識を持てるように取り組みます。

・民医連学校や法人研修への参加率 100%を目指して取り組みました。また職員育成指針に基づき、特にリーダー的職員の研修に力を入れました。

・各園では、職員が役割意識をもって取り組めるように、役割分担を明確に示したり、同じ立場の職員でのグループワークや会議などを実施したりしました。

⑥ 保育士の採用と育成、定着を図り、安定した保育体制を構築します。採用活動では取り組みを継続していきます。職員定着のため、保育のやりがいと意欲を高める取り組みをすすめます。

・職員確保の目標設定が甘く、2023 年度に向けての職員採用数が不足しました。職員面談等を通じて、退職意向の把握をしっかりとすることや、一定数の職員採用は毎年継続することなどを今後に生かしていきます。

⑦ より良い施設環境づくりに取り組み、必要な修繕をすすめます。

・各園で必要な環境整備を行いました。乳銀杏保育園など老朽化が深刻な施設の整備を具体化していくと同時に、柳生もりの子保育園や古川もも木保育園など今後の施設整備計画、またその他の施設でもメンテナンスや計画的な修繕などの見通しを持つことが必要です。

⑧ 保育事業部門にて 3 千万円以上の黒字を目指します。

・年度当初には、0 歳児の欠員が見られた園もありましたが、年間を通して途中入所を積極的に受入れて定員充足を目指しました。特に岩切たんぼぼ保育園では開所以来初の定員充足が目前になっています。

・物価・燃料費高騰による事業費の支出の増加や下馬みどり保育園の地震による修繕等の費用支出の増加が見られましたが、下馬みどりの修繕費は県の補助金の対象となることや制度上コロナによる減収になりにくいこと、そしてほとんどの園で昨年同様の児童数を確保し岩切たんぼぼ保育園では人員配置をして 1・2 歳児クラスを再開し大幅に入所児童数を伸ばした結果、保育事業全体では最終補正で 7 7 百万円の黒字となりました。



## 障がい事業

### 【2022年度の総括】

経営改善については、児童発達支援センターは、今年度は児童発達支援管理責任者を配置でき配置加算を取得しました。相談支援事業との連携もあり登録数も増加しましたが、併用利用者が多く稼働率を予算水準まで引き上げるところまでいきませんでした。放課後等デイサービスでは、近隣のコロナ感染の影響を受けた月もありましたが、予算に近い稼働で推移しています。就労継続支援B型では安定した稼働が維持されています。工賃を上げるための新規受託作業の開拓を職責者中心に行っています。工房歩歩は70%近い稼働が維持されています。

ととてでは、この間の事業所運営の課題でありました職員会議を定例化することができました。全体職員会議の中に学習と稼働の状況、目標確認を位置づけ、また各部門から状況や取り組みの報告を行い、部門を超えた職員間での共有を行いました。部門ごとの会議では学習や支援の内容を職員間で検討することを通して、質の向上を目指しました。

### 【重点課題】

- ① 職員が、法人理念、民医連綱領を学び実践できるように、計画的に学習に取り組み、法人理念、民医連綱領に基づいた支援を行います。
  - ・全体職員会議での定期的な学習を進めることはできました。計画が事前にできなかったことは課題として残っています。職員の法人研修、民医連の研修への参加を進めることができました。引き続き、理念を学び、実践と理念を結びつけられるような学習を進めていきます。
  - ・全体職員会議での各事業からの実践報告は、事業、部門を超えて、それぞれの取り組みを知る機会となっています。そのことで職員間の連携がすすんでいます。
- ② 地域における相談の拠点として、相談支援事業の運営を行います。
  - ・りんごのほっぺの利用者を獲得し、利用するまでの期間を短縮するためにも、相談支援で新規を受け入れてきました。相談支援として、地域の支援の役割を担ってきました。
- ③ 就労部門は引き続き90%稼働を維持できるように取り組みます。児童部門は、登録者を増やして稼働を上げ、安定した経営を目指します
  - ・就労部門は安定した稼働を維持できました。また、新たな作業獲得や一般就労に向けた支援を行ってきました。
  - ・児童部門は、地域の保健師や関係機関との連携を通して登録者獲得に努めてきました。登録数は増えたものの4、5月の稼働の落ち込みを挽回できませんでした。
  - ・課題だった児童発達支援管理者の配置ができ、単価を前年度より上げることができました。しかし、今年度末で退職となってしまう、児童発達支援管理者の配置が今後の課題となっています。

- ④ 障がい事業全体での利益目標±0円を目指します
  - ・児童部門の減収が改善できずマイナス決算となりました。
- ⑤ 障害福祉の情勢や地域の状況に目を向け、関係団体とも連携し、運動に取り組んでいきます。
  - ・取り組みとしての弱さがあり、引き続きの課題となっています。

## 高齢者福祉施設 宮城野の里

2022年度は、新型コロナウイルスへの対応と、物価・光熱水費の高騰の影響を大きく受けた1年となりました。

新型コロナウイルスは、7月にショートステイで利用者6名、職員4名のクラスターとなりました。利用者は全員入院できました。ゾーニングなどの対応が後手に回り感染が拡大したと思われる反省点も多かったです。年末年始にかけて、ショート利用者、ケアハウス入居者の感染もありました。今回は入院できず施設での留め置きとなり対応しています。前回の反省を生かし感染拡大は起きていません。その他でもデイサービス利用者や職員の感染も多数あり、職員体制が厳しい状況も見受けられました。職員の奮闘で何とか乗り越えられましたが、在宅サービスでの感染対策の難しさを痛感した1年でした。

経営面では、物価・光熱水費の高騰、新型コロナウイルスによる事業休止、居宅ケアマネの病休など、収入減と経費の増加が重なり、非常に厳しい状況となりました。設備の破損や備品の故障なども増えており、費用の増加が見込まれます。2024年度の介護報酬改定を見据えて、部署ごとだけでなく施設全体として経営を考え、実行できる体制をつくり、職員全員で経営改善に取り組みます。

デイサービスで、大きな事故が2件続けて起こり、その後の対応からクレームとなり損害賠償が発生する事案がありました。事故に対する要因の分析、対策の不十分さ、謝罪を含めたその後の対応が不適切だったことなど、様々な要因が重なり大きなクレームへと発展してしまったと思われます。管理者としての姿勢を問われる事案でした。事故対策や事故発生時の対応、クレーム対応などを適切に行えるよう研修等で学び、マニュアル等も整備し、利用者・家族が安心できるサービス提供へつなげていきたいと思えます。

社会情勢などの外的要因の影響が大きいです。施設の実態や利用者・家族の声を届けることや社会保障運動に積極的に取り組み、今の困難な状況を変えていけるようにし、安心して暮らし続けられる地域となれるよう取り組みたいと思えます。

### 【ショートステイ】

#### 1. 利用者動向

新型コロナウイルスの感染力の強さと、自分たちの初動の遅さを思い知ることとなった1年になりました。6月下旬～7月上旬にかけて利用者様 6名、職員 5名がコロナに感染し、受け入れを中止、12月下旬は利用者様 3名感染し、12月下旬から年始の受け入れを中止することとなり、多くの方にご心配とご迷惑をかけてしまいました。改めて、感染する・広げてしまうリスクが高いサービスであることを実感すると共に経験を経て、体調

不良者が出た時の対応ができるようになったと思います。

稼働率は、受け入れを中止した期間を除けば安定した稼働率となったと思います。利用者様の利用の仕方についても昨年度の傾向が続き、実人数が減り、1人あたりの利用日数が増えている状況です。

介護度については、要介護4の利用者様の長期的な利用が多く、昨年度の要介護3と4の構成が逆となりました。しかし、年度後半にかけて要介護4や5の方の施設入所が続いたため、再度要介護3の方の長期利用者が増えてきている状況となっていくと思います。

新規の男性利用者様の増加が昨年度に引き続き増加し、お問い合わせも定期的にあるため、今後も増えるのではないかと考えます。新規の利用者様は積極的に受け入れていくことはもちろんですが、定期的なご利用に繋げていくよう働きかけていきたいと思っています。

### 1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	前年
稼働率	95.2	100.8	97.5	71.1	106.5	101	98.1	95.2	.9	98.2	100.4	94.4	94.8	-3.1
予約時	83.3	84.4	90	98.3	94.6	97.1	105.2	103.3	102.7	93.5	95.7	93.2	94.3	-9.6
実人数	56	56	55	41	56	54	60	53	44	51	52	57	52.9	-3.6
延べ人数	571	625	585	441	660	606	608	571	514	590	562	585	576.5	-19.4
介護度	2.71	2.89	2.95	3.08	3.06	3.1	2.97	3.01	3.08	2.96	2.93	2.74	2.95	0.15
新規	6	3	5	2	4	5	2	5	2	5	6	13	4.8	0.6
定期	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	4	1.5	-0.3

### 2) 平均利用日数

2022年	8.6日
2021年	6.6日

### 3) 男女比

	男性	女性
2022年度	16.3%	83.7%
2021年度	14.7%	85.3%

### 3) 介護度別構成比

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
2022年度	0%	0.8%	11.4%	23.2%	28%	28.2%	8.4%
2021年度	0.1%	1%	14.1%	20.1%	38.3%	19.2%	7.3%

## 2. 目標について

- ① 目配り・気配り・心配りをより一層意識し、利用者様に寄り添った対応を実践していきます

新型コロナウイルス感染拡大を経て、利用者様の日頃の体調変化に対する目配りは特に力を入れて取り組み、実行できたと思います。利用者様が求めていることを想像したり、立場に立って考えたり、気配り・心配りを意識した対応を心掛けましたが、想像することや思うことはしても、実際に対応まではできていなかったり、実際に対応してみたが、そ

の場限りで職員で共有するまでに至らず、継続もできていない状態となってしまいました。今後は自分の対応について会議等で共有したり検討したりする時間を多く作っていく必要があると思います。

私の気持ちシートの作成を通して、職員同士で同じことに気付いているという共通認識できると同時に、自分との関わりでは気付かなかったことや発言を知ることができる機会となっているため、シートの作成を継続しながら、声掛け等支援方法を整理していきたいと思っています。

② 介助方法や声掛けといった利用者様への対応や1日を通しての時間の使い方等で当たり前のようになっていることを見直します

認知症やスピーチロック等学習をしたが、実践につなげられたかという点で不十分であったように感じます。実際の状況に即したシミュレーションを重ねていくと共に、身体的な介助や時間の使い方については取り組むことができなかつたため、来年度取り組みを進めていきたいと考えています。

③ 目標稼働率97%

平均稼働率94.8%と目標の達成には至りませんでした。受け入れを中止の期間が2回で合計25日程度あったため、その分稼働は低くなりました。受け入れを中止期間に他のショートステイを利用された方が再度利用していただけるか不安がありましたが、定期的に利用されていた方は皆さん受け入れ再開後に利用してくださり、信頼を失わないよう感染対策と初動が遅くならないようにしていきたいと思っています。

居室が空いている限り、緊急利用も積極的に受け入れをしていくと共に、ご利用延長の声掛けや、長期的なご利用の利用者様が抜けてしまう時にできるだけ早く次の方にご利用していただけるよう早めに動き出し、空床案内も出していきたいと思っています。

## 【デイサービスセンター I】

### 1. 利用者動向

2022年4月は新規、再開利用含め10名新規獲得から始まりました。月で10名の新規利用は過去に例はなかったです。月の新規獲得3名以上を目指し、月初めの居宅訪問、毎週居宅、包括へのFAX宣伝等も継続し、月3名以上新規獲得できた月は5回ありました。利用開始理由としては「体験利用して気に入った」という方が多かったです。昨年度、体験利用しても利用に繋がることができなかつた方も居た事から、なぜ福田町デイサービスは選ばれなかつたのか？なぜ福田町デイサービスを選んでくださったのか？をケアマネやご家族様より聞き取り、それらの情報を職員間で共有し、利用者様に満足した体験利用ができるよう取り組みを強化した1年でした。

### 1) 利用者実績

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数		26	26	26	26	27	26	26	26	26	26	24	27	310
定員		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
実人数 (支援)		17	17	17	15	16	20	20	21	20	17	19	19	218
実人数 (介護)		59	58	58	58	55	54	57	56	57	56	52	54	674
延人数 (予防)	1	24	26	22	13	17	33	35	46	26	21	35	41	339
	2	85	88	82	77	87	86	90	75	82	60	68	77	957
延人数 (介護)		544	589	742	561	595	570	587	586	588	518	544	628	7052
利用率 (%)		83.6	90.0	87.3	83.3	86.3	88.3	91.3	90.6	89.3	83.3	90.0	92.0	88.0% (平均)
平均介護度 (予防)		1.7	1.7	1.7	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6 (平均)
平均介護度 (介護)		1.8	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.8	1.8 (平均)
個機 (延回数)		137	136	137	112	136	124	120	118	101	77	99	157	1454
キャンセル		57	52	73	134	113	87	48	65	91	140	49	46	955

### 2) 入退所者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2021	2022
開始者数	10	1	2	2	3	3	0	5	3	1	1	2	39	33
終了者数	0	3	1	2	2	2	4	3	4	3	1	3	44	28

### 3) 利用開始理由

開始理由	開始合計	機能低下 予防	家族の介護 負担軽減	見学体験で 気に入った	入浴 目的	支援⇒介 護へ移行	再開利用	知人が利用し ている	その他
人数	33	0	0	14	7	5	2	2	2

### 4) 利用終了理由

終了理由	終了合計	死去	入所	デイⅡ へ移行	本人が希望 しない	介護⇒支 援へ移行	支援⇒介 護へ移行	入院	ロング SS	その他
人数	28	3	7	2	1	1	5	4	3	2

## 2. 具体的な取り組みについて

### 1. 目標

①新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら、利用者様お一人おひとりが「ここに来て良かった」と安心して利用ができ、満足度を高める活動に取り組めるデイサービスを目指します。

・コロナ感染の状況として、7月、8月、翌1月と職員、利用者様を含め、数名のコロナ陽性者が発生する事態となり、濃厚接触で自宅待機、感染予防の為デイサービス利用自粛をされる方のキャンセル数が延 100 以上と多い月でした。感染症は終息することはない中ですが、感染症対策に取り組みながら、利用者様が個々に選択できる、満足が得られる活動に取り組めるよう、環境や方法に工夫し取り組む事ができました。

・科学的介護加算の取り組みを具体化するための実践はできませんでした。2024 年度介護保険制度改定には、加算算定が必須なので、具体化に向けて、進めていきたいです。

・個別機能訓練へ取り組む利用者様が増加した年でした。機能訓練指導員を 1 名から 2 名体制で増員し、個々の目的に合わせた活動への取り組みを継続することができました。

②利用者様の心身の健康と安全を守るケアを目指し、“気付く”ことを大事にします。

・毎月のケアカンファレンスの中で、利用者様の状況を職員間で共有するために、職員一人一人から会議前に意見を集約し、会議の中で気づきの確認をし、利用者様のケアに繋げる事ができました。

・ヒヤリハットの件数については、気づいて記入する職員と記入しない職員がいました。ヒヤリハットに気づいているのか？気づいていないのか？場面によっては、職員同士で声を掛け合い、ヒヤリハットに対し日常的に意識できる体制を整えたいです。

③目標稼働率 86% （実人数 80 名以上目標）

・年間平均稼働率 88% +2%目標稼働達成

・実人数：最大 81 名（R4.9） 最小 75 名（R5.2） 平均実人数：78 名

・稼働を上げる事と利用者様の満足度を高める事は必要不可欠である事から、職員それぞれの役割をしっかりと発揮し、職員一丸となって利用者獲得に向けて取り組んできました。稼働達成した月は、4月、7月、翌1月以外の9ヶ月でした。昨年度と比較すると、安定した稼働率でした。また、今年度は昨年と比べ時短利用者の利用も多かったです。時短利用の理由としては、ADL の低下から必要なサービスを短時間で利用したり、介護の手間が増え、必要とするサービスはあるものの、計画単位数をオーバーしてしまう為、目的にあった利用をされる方が増えています。

コロナという感染症が流行する中、今まで以上に感染対策に取り組む体制整備は、職員も利用者様も互いに精神的なストレスを感じた1年でした。そんな中、福田町デイサービスセンターの利用を選んで頂き、「また来たい。ここでみんなと会うことが幸せ」と利用者様からのお言葉を励みに、引き続き、目標稼働の維持、向上に向けて取り組んでいきたいと思っております。

## 【デイサービスセンターⅡ】

### 1. 利用者動向

昨年度に引き続きコロナ禍の中、マスク着用、手洗い、手指消毒、密を避ける等、今では当たり前となった感染対策ですが、重度の認知症をお持ちの利用者様にはそれが難しく、職員自身の十分な感染対策、利用者様へのこまめな感染対策の声掛け・お手伝い、濃厚接触者や感染の疑いの方が出た時に広げない為の迅速な対応が非常に重要であると実感する一年でした。

実人数が昨年度より減り、一人あたりの利用日数が増えている傾向で利用終了時の影響がとて大きく、実人数を増やしていかなければ目標稼働率の70%は難しく、施設入所を検討中の要介護3の利用者やご高齢の利用者様が今現在も多い状況の為、今後もこの状況が続くと考えられます。

ご家族事情による追加利用、振替利用、目的別の短時間利用など、受け入れの柔軟な対応、積極的な営業活動、デイⅠ利用者のデイⅡへの移行など、目標稼働率達成に向けて常に稼働の進捗状況と共に運営して参ります。

#### 1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
実人数	18	19	18	18	17	15	21	20	19	18	17	17	18.1 平均
利延人数	241	251	228	206	230	204	267	262	260	168	201	215	2733
利用率	77.5	80.8	73.3	65.8	70.8	65.0	85.8	84.2	83.3	58.3	70.0	66.7	73.5 平均
平均 介護度	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.3	3.2	3.0	3.0	3.1	3.2 平均

#### 2) 入退所者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2021	2022
開始者数	1	0	1	1	0	1	4	0	0	0	1	0	8	9
終了者数	1	2	0	1	2	1	0	1	2	1	1	1	10	13

#### 3) 利用開始理由

開始理由	利用開始 合計	交流目的	ロコミ	家族の介護 負担軽減	見学・体験 気に入った	入浴 目的	認知症進 行予防	デイⅠより 移行
人数	9			1	5	1		2



#### 4) 利用終了理由

終了理由	利用終了合計	入院	死去	入所	本人が希望しない	家族が希望しない	ターミナル	転居	その他(小規模多機能)へ移行
人数	13	4	2	2			3	1	1

#### 2. 具体的な取り組みについて

##### 目標

①コロナ禍の中、感染症対策に取り組みながら「自分らしく 安心して 暮らし続けられる居場所」となるように、居心地の良い雰囲気づくり、利用者様個々に応じた対応を行ないます。

・1月、コロナ感染が蔓延する事態となり、重度の認知症をお持ちの方への感染対策が改めて難しいと実感しました。蔓延の反省を生かした対策を新たに取り決め、職員の意識改革を行いました。次年度の課題としても、今後も継続して取り組みます。

・ご利用者様おひとりおひとりのニーズに合わせた対応を、「私の気持ちシート」を活用して、利用者様の抱える生活課題を解決する取り組みを職員間で共有して実践致しました。ここに来るのが楽しい、安心する、自分で排泄動作が出来るようになった等、ご自分の役割や居場所が見つかった、出来る事が続けられる、出来なかったことが改善されたというご利用者様が増え、それが職員のモチベーションにも繋がり、更に良い雰囲気づくりに繋がったと感じました。同時に、ご利用者様の心身の安定が、ご家族支援にも繋がっていると、強く感じました。

②専門性のある認知症ケアを実践して、利用者様の認知症進行の予防や緩和に努めます。

・毎月の継続した認知症ケアの学習会の実施が難しく、次年度の課題と捉えています。一年間の学習計画を事前に取り決め、それに沿った中身ある勉強会を実施して、質の高い認知症ケアを実践して参ります。

・「私の気持ちシート」の活用で、利用者様、ご家族様の背景を知り、理解を深め、デイサービス以外での暮らしの状況を把握、想像する力が身に付きました。今後も継続しながら、「思いをきく」「情報を集める」「ニーズを見つける」3つの段階を踏んだケアを実践して課題解決に努めます。

③ご家族様、介護支援専門員、包括と協力し地域の各事業者との連携を図り、地域資源とのつながりを保ちながら、信頼され評判の高いデイサービスを目指します。

・ご家族様にお渡しする連絡帳には、毎日のご様子を詳しく記載致しました。ご様子や状態に変化があった際は、電話連絡で情報を共有して、よりよいサービス提供に繋がりました。

・ご家族様、家族支援専門員、他サービス事業所と、多職種連携を図り、ニーズに合わせた柔軟な対応が出来ました。

・ご家族様、介護支援専門員へ、毎月、写真付きの広報誌を配布しました。「久しぶりにあんなに笑った母の顔を見ました。」等のお言葉をいただき、好評です。

・コロナ禍という事で、家族懇談会や運営推進会議の開催が出来ませんでした。次年度は、コロ

ナ禍での開催方法を検討して、開催の実現に努めます。

④目標稼働率 70%

- ・年間平均稼働率 73.5% +3.5 目標稼働達成
- ・実人数：最大 21 名 (R4. 4/10) 最小 17 名 平均実人数：18 名
- ・7 月、9 月、施設入所、自宅療養、死去等での利用キャンセルで、稼働が 70%を切り低迷した時期もありましたが、目標稼働率の 70%に戻すべく、なんとか新規獲得に努めてきました。
- ・1 月コロナ感染により状態悪化での長期入院、2 月死去、3 月施設入所等、週の半分以上利用されていた方の利用キャンセルが相次ぎ、その影響が大きく、現在もキャンセルの穴を埋められない状況にあります。デイ I 利用者の認知症状進行によるデイ II への移行、今まで受け入れのない要支援の方等、視野を広げた積極的な営業活動で、目標稼働率の向上・安定を目指します。

**【ケアハウス】**

1 入居者動向

1) 入居年数 (2023. 3. 31)

	0～5 年	6～10 年	11～15 年	10 年以上	合計
男性	1	4	0	0	5
女性	12	7	4	1	24
合計	13	11	4	1	29

2) 年齢状況

(歳)	61～65	66～70	71～75	76～80	81～85	86～90	91～	合計	平均
男性	0	0	2	0	0	1	2	5	83.2
女性	0	0	4	5	6	6	3	24	83.8
合計	0	0	6	5	6	7	5	29	83.5

3) 退所者数・理由内訳

退居後	特養	死亡	他施設	病院	自宅	合計
人数	2	0	2	1	0	4

4) 要介護認定者・内訳

区分	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	事業対象者	合計
人数	9	7	5	1	1	0	0	3	27

5) サービス種別

種別	訪問介護		通所 介護	通所 リハ	福祉 用具	訪問 看護	訪問 リハ	居宅 療養 管理	シ ョ ート	往診
	生活 援助	身体 介護								
人数	15	4	19	4	20	6	1	1	3	2

6) 入院者：3名（内訳：貧血1、てんかん1、打撲1）

7) 車椅子利用者：2名、 歩行器利用者：17名

8) 入居待機者数：55名（2023. 3. 31 現在）

2 取り組み

- ・朝の健康観察を継続しお一人おひとりの心身の状況を把握することで、体調の変化に気づき対応します。  
⇒朝のお部屋訪問を継続したことで発熱者、コロナウイルス感染者を早期に気づき対応することができました。ケアハウス内で感染症の蔓延を防ぐことができました。
- ・対話の機会を確保し、変化や悩み、困りごとを把握し早期に対応します。  
⇒個人での相談も多くあり都度対応することができました。その他、意見箱へ投書しケアハウスの暮らしの中での不満を聞くこともあり、懇談会で入居者と情報共有し、解決案を提示することができました。
- ・各居室の環境整備について、ケアマネジャーや本人、ご家族と相談し、暮らしやすい環境を整えます。共用部では、プライバシーに配慮できるような空間を整備します。  
⇒個々にお部屋の環境について、考えられるリスク、暮らしやすさなどをお話してきたが、転倒などの事故がおきる前に環境を整えることについて入居者から同意を得ることは難しかったです。福祉用具について、知る機会をつくり便利さを知る機会をつくれると良いと感じました。  
共用部の環境について、談話室に大きなテーブルを置いたことで入居者同士が集まり談話している姿が見られたり、新聞などが読みやすくなりました。
- ・介護予防に取り組み、体操や楽しみのある行事、サークル活動を継続的に行っていきます。  
⇒介護予防体操は、1年を通し定期的に行うことができました。曜日や時間も定例化したことで参加する方も多くいらっしゃいました。
- ・介護保険で対応が難しい支援について、ケアハウス独自のサービスを明確化し、独自の有料サービスについて検討します。  
⇒有料サービスの検討にあたり、現在ケアハウスのサービス以外で行っている支援について確認しました。継続して行う必要がある支援と、単発の支援とで沢山の事柄が考えられました。  
通常業務に加え、サービスを行った時の記録や清算の手間を考えると有料サービスの実行までには至りませんでした。

## 【居宅介護支援事業所】

### 1. 利用者動向・経営面

全ケアマネジャーが、ケアプラン作成目標数を超過して達成することができました。

但し、7月に主任ケアマネジャー1名の欠員があり、その影響で特定事業所加算Ⅱの算定要件が満たせなくなったため、結果的には減収減益となりました。人員補充により体制を元に戻し、特定事業所加算Ⅱを復活させることが早急の課題ですが、地域のケアマネジャーが不足しているため、今後もなかなか厳しい状況です。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
要介護実績	168	161	155	156	153	150	153	150	148	147	146	145	1832
要支援実績	23	24	23	25	22	23	23	22	21	19	19	19	263
合計	191	185	178	181	175	173	176	172	169	166	165	164	2095
新規受入	3	1	3	3	1	0	2	1	0	1	2	0	17
契約終了	3	6	5	6	3	2	5	3	4	2	4	0	43
受入拒否	2	1	1	3	1	1	2	1	2	0	0	2	16
新規相談者	本人	病院	福包	高包	岩切包	利中包	利北包	多西包	七ヶ浜包	他包括	サービス	民生委員	合計
	3	2	6	1	0	0	1	2	0	0	1	1	17
終了理由	死亡	特養	老健	GH	小多機	看多機	有料	苦情	入院	利用無	他居宅	包括	合計
	15	5	5	2	0	1	3	1	2	1	4	8	47

### 2. 取り組みについて

「ご利用者・ご家族、各関係機関、地域の方々も「安心」「信頼」できるケアマネジメントを提供する」を目標に掲げ、「法令遵守」「記録整備」「アセスメント能力の向上」「公平中立な立場の堅持」「説明責任の完遂」「相談援助技術の向上」「権利擁護・虐待防止」「災害時対応」「困難ケースの積極的受入」などに取り組みました。但し、7月の欠員が大変急なことだったため、その対応に追われ、なかなか計画通りに進めることができませんでした。

しかし、その様な中でも、年度末に開催した他法人居宅介護支援事業所と合同の困難事例検討会では、9法人15名の参加を頂き、大変好評を得て終わる事ができました。

#### <他法人居宅介護支援事業所との合同研修会アンケート集計結果>

- ① 経験年数：1年未満（1人）、2年以上3年未満（0人）、3年以上5年未満（2人）、5年以上10年未満（5人）、15年以上（6人）
- ② 基礎資格：介護福祉士（11人）、社会福祉士（2人）、看護師（1人）、その他（2人）
- ③ 担当件数：平均32.3件（最高41件、最低20件）
- ④ 参加者の感想（一部省略）
  - ・ 久しぶりに対面での研修会に参加し、対話する熱量を肌で感じながらとても良い意見交換の場となった、
  - ・ 色々なサービスに繋げるまで大変苦労したプランだと思う。関係性をつくる事も本人家族のペースに合わせて行う必要があると思った。拒否するという事もその背景等、言葉の上だけで無く、本当はどうか掘り下げて探っていく問題を解決していく姿勢が必要と勉強になった。

- ・一つの事例で様々な意見があり、とても参考になった。今後、キーパーソンがいない方の支援も増えてくると思うので、皆さんの意見を参考にできる機会が増えればと思う。
- ・今回の事例検討会はとても良かった。ケアマネの入り方についてもタイミングによって大きく異なると思う。ケアマネジメントしかない立場として、実際にケアするのではないので、今回の様な事例の方に支援するのは大変だったと思った。
- ・ZOOMでの研修が多く、他のケアマネとの交流が無かったのが久しぶりに生の声を聞くことができ大変有意義な時間を持つことができた。次回もよろしく。

⑤ 今後、取り上げてほしいテーマ（一部省略）

- ・ 社会資源
- ・ お金の話（活用できる制度など）
- ・ 身寄りのない方の支援
- ・ 生活困窮者（生活保護受給者以外の低所得者。ライフラインも止められそう等）
- ・ 医療との連携で上手く行った事例
- ・ 居宅事業所各々に特性やアピールポイント等（現状と課題）の共有
- ・ 身寄りの無い生活保護受給者で認知症や障害等を抱えている方の事例検討
- ・ 引き続き支援困難事例
- ・ キーパーソンがいない方だけに特化して、対応策があるのか、ケアマネがどこまで関わっているのか等

### 【地域包括支援センター】

#### 1. 担当圏域の状況と課題

担当圏域の高齢化率は 22.45%（田子地区 21.57%、高砂地区 20.97%、鶴巻地区 24.92%、岡田地区 31.57%）で全体的的に高齢化が進んできています。

コロナ感染症の流行により停止していた地域活動が、感染対策をしながら再開する地域が多くみられました。

コロナ禍で、外出の機会が減少し、その結果体力や筋力、認知機能の低下につながり、介護保険の申請をする方が増えました。また、地域の方同志での顔を合わせる機会がないため、独居や高齢者世帯の状況が見えない方もいるという弊害がありました。今年度の総合相談件数は月平均 97 件。その中で、地域やケアマネジャーから、認知症の初期症状の相談が増えています。相談が来るとすぐに訪問にて対応するけれど、介入が難しくなかなか受診等に繋がれないケースが目立ちました。また、同居家族の精神疾患の方の相談も多くなっています。

## 2. 2022年度の総括

### ① 予防プラン件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
208	215	221	221	216	235	231	235	232	233	228	238

### ② 相談件数(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
135	87	116	104	111	89	128	103	96	96	90	119

※相談内容としては、介護保険の相談が最も多く、認知症や虐待や経済的困難、消費者被害などプラン以外の相談も多かったです。

### ③ 早期の相談に結びつけるための取り組み

- ・ 第一・三民児協の会議には参加し顔の見える関係づくりや包括のPRを行いました。
- ・ 社協小地域ネットワークで行うサロンは令和4年度も開催されませんでした。が、田子中学校区防災訓練や田子っこまつりなど、再開をした催しの行事には積極的に参加し、包括のPRを行った。
- ・ 地域の商店や病院、郵便局に貼ってもらうなど地域との連携も図りました。
- ・ ファミリーマート福田町支店と七十七銀行扇町支店で毎月1回相談会を行うことが出来ました。
- ・ 担当エリアのファミリーマート各店で掲示し包括のPRを行いました。

### ④ 認知症の普及啓発と早期相談・本人や家族の支援のための取り組み

- ・ 認知症サポーター養成講座を2回行い、39名の参加でした。
- ・ 認知症カフェを4月から3月まで地域の通所介護の場所を借りて定期開催しました。  
地域の薬局の薬剤師より、認知症や健康、薬等のミニ講話を行った。又、1町内会から依頼があり、集会所を借りて、出張ひまわりカフェを令和4年10月より月1回開催しました。
- ・ 「認知症の人と地域を支える会」を、Zoomで回行い、地域密着型事業所と情報共有を行いました。

### ⑤ 地域の実情把握と地域における支え合いの体制づくりの取り組み

- ・ 包括圏域会議は、年2回、各中学校区に分かれて行い、「地域で暮らす高齢者の見守り」について、仙台市社会福祉協議会の第一層コーディネーター、庄子克彦係長の講話で学習を行いました。
- ・ 今年度は、地域活動の休止により、地域の方と顔を合わせる機会が減少しましたが、南蒲生と新原田、堀切茶話会の被災地区の活動支援は休止せずに行いました。
- ・ 地域ケア会議を年6回開催し、地域で暮らす高齢者の情報共有を民生委員と担当ケアマネと行い、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう支援をしました。

### ⑥ ケアマネ支援の取り組み

- ・ 虐待や経済的困難などの困難事例のケースの介護支援専門員からの相談で、同行訪問や支援者会議などの支援を行いました。

- ・ 介護支援専門員の資質向上研修に関しては、今年度はオンラインでの研修を年 3 回行いました。
- ・ 地域のケアマネジャー向けに、高砂包括支援センターを合同でケアマネカフェを行い、日頃の悩みや工夫している点などを語り合いました。

#### ⑦権利擁護の普及啓発の取り組み

- ・ 消費者被害の啓発で、啓発用ティッシュを関係機関と連携して配布しました。また、特殊詐欺注意報をメールで事業所に配信するなどの取り組みも行いました。
- ・ 権利擁護研修で、1 回目は地域のケアマネジャー向けに、坂総合病院の SW を講師に招き、い「医療との連携」について学習しました。
- ・ 2 回目は、地域住民向けに、七十七銀行の行員さんを講師に招き、「老後のお金」について学びました。

#### ⑧介護予防の取り組み

- ・ 介護予防教室は、6 月から地域の実情に合わせて開始し、年 20 回行いました。
- ・ 南蒲生・新原田・田子西こだま・堀切等の健康教室や茶話会を、継続して支援することができました。

#### ⑨職員の質の向上のために

- ・ 月 2~3 回ケース会議を開催し、関わりや支援の情報共有や意見交換の場としました。
- ・ 今年度の研修の多くはオンラインや書面での研修がほとんどでした。職員が偏ることなく、皆が研修を受けることが出来ました。

## 【食養】

### 1、2022 年度の総括

2022 年度は食養の人事変更があり、管理栄養士が変わりました。

新型コロナウイルスに関しては、昨年度と同様に感染が終息せずに広まっているため、感染対策を引き続き行いました。また、施設内でのクラスター発生時、使い捨て食器を使用し食事提供を行いました。新型コロナウイルス感染拡大とウクライナ情勢の影響で世界的に物流の往来が悪くなり、原料および原材料の高騰、原油高騰における物流費・包材費の上昇、エネルギー価格の高騰等のさまざまな影響に伴い食材の値上がりが続いています。度重なる値上げが、献立作成などに影響しています。

普段の業務では、22 年度は昨年度に引き続き事故・ヒヤリハットの改善に取り組みました。ヒヤリハットは良くないことという認識から事故を防ぐためには大切なことだという認識へ改め、ヒヤリハットと事故の内容を毎月の会議議題として取り上げ、食事に関する事故の件数を減らせるよう改善策を話し合いました。その内容を事故対策委員会に報告し、他部署の意見を伺い、事故の件数を減らすことができました。

### 2、具体的な取り組み

- ① ケアハウスを住まいとされる入居者様に、これまでの献立を参考にしながら同じよう

な料理や味付けにならないように考えながら献立を作成しました。調理師と相談し、鶏のチリソースなど新しいメニューもいくつか取り入れました。食事アンケートでは、食べたい料理や要望をお聞きし、献立に取り入れたり、味付けについて調理師と話し合ったりするなど喜ばれる食事づくりを目指しました。

- ② デイサービスの利用者様には、検食簿やデイ職員とのやり取りを参考に、味付けの改善に努めました。その結果、食事が美味しくなったという声が聞かれ、全体の喫食率もアップしたと聞きました。利用者様の栄養状態の維持・向上・改善にわずかですが繋げることができたのではないかと思います。
- ③ ショートステイでは、持病などの理由により、個別の対応が必要な方も度々利用されます。そういった方には職員と相談をしながらその人に合った食事の提供を行いました。また、体調の変化により食欲が進まない方に対しては、「お粥」や「飲み込みやすいもの」などの要望にその都度対応しています。
- ④ 行事食は、これまでの献立を参考にしながら調理師と相談し、おやつを含め利用者様に味・見た目共に喜ばれる食事を目指しました。現場の職員から、献立で改善してほしい要望を受けていたので、その点も留意して献立を作成しました。多くの利用者様が完食され、とても喜ばれていたというお声をいただくことができました。
- ⑤ 事故・ヒヤリハット報告については、ヒヤリに対する良くないことという認識から、事故を防止するためには大切なことという認識へ改め、ヒヤリハット報告書を積極的に書いてもらうようにしました。また、食養内で見つけたものは「ヒヤリ」、食養外で見つけたものは「事故」というように対象範囲についての変更もありました。事故を無くすため、配膳前の検膳も始めました。上がってきた各報告は、食養会議で原因と再発防止策を話し合い、行動変容に結びました。その結果、配膳間違いのような事故が以前と比べ少なくなりました。
- ⑥ 22年度の勉強会は、食養内においてコロナウイルスの感染があったため、基本に立ち返り「食中毒・感染症防止のための手洗いについて」行いました。手を洗うタイミング、手の正しい洗い方を勉強し、給食施設における手洗いの重要性を再確認できました。以降業務中の様子を見ていても、以前より意識して手洗いを行っている職員が増えたように感じます。



## 十符・風の音/木の実/サテライト史

コロナ禍3年目の年度が終了しました。施設全体で感染予防対策を継続し、幸いなことに施設内感染することなく、パンデミックを乗り切れたことは、日々の職員の努力の賜物だと感謝しています。今後あらゆる場面で規制緩和されるため、より一層の感染対策が求められます。

今年度は一定の職員確保も進み、10月よりショートステイ10床再開、木の実土曜日開所することができました。当初見込んでいた稼働には到達できませんでしたが、今後中長期計画に基づき、来年度はこうなっていきたいという思いを職員で共有しつつ、成果を積み上げていきたいと思えます。長期入居部門は各部署の職員の奮闘、協力により稼働率100%の月もあり、働く職員のモチベーションアップにもつながったのではないかと思います。委員会活動も勉強会の開催等、計画通りに実施でき、今後シミュレーション研修等の準備も進めていきたいと思えます。Web研修の参加機会も多かったことから、伝達研修として職場内に新しい知識をアウトプットできたことは特徴的だったかと思います。

また今年度の離職者はゼロでした。心理的安全性が保たれ、理念に沿った施設運営ができるよう、職場全体の目標にしていきたいと思えます。

サテライト史以外、風の音の経営状態は引き続き不安定で、本部から資金調達することも年に数回ありました。物価や水道光熱費の高騰、修繕費や設備更新の費用増加があり、今後も資金がひっ迫する状態が見込まれます。必要利益を施設全体で共有し、費用削減と一緒に収入増加について議論し、コンセンサスを持って施設運営していきたいと思えます。

### 【稼働率一覧】

風の音長期入居 目標稼働率 97.5% 実績 96.1%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受入可能延利用者数	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,400	1,550
実績延利用者数	1,386	1,454	1,462	1,536	1,550	1,452	1,477	1,427	1,493	1,425	1,342	1,539
稼働率	92.4%	93.8%	97.5%	99.1%	100.0%	96.8%	95.3%	95.1%	96.3%	91.9%	95.9%	99.3%
平均介護度	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
1日現入居者数	48	48	49	49	50	50	48	48	49	47	47	49

風の音ショートステイ 目標稼働率 57.8% (定員 10名) 実績 54.7%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受入可能延利用者数	300	330	300	310	310	300	620	600	620	620	560	620
実績延利用者数	337	327	282	301	314	311	389	371	414	372	288	295
稼働率	112.3%	99.1%	94.0%	97.1%	101.3%	103.7%	62.7%	61.8%	66.8%	60.0%	51.4%	47.6%
平均介護度	2.7	2.4	2.3	2.4	2.6	2.6	2.8	3.1	3.0	3.0	2.7	2.6

デイサービスセンター木の実 目標稼働率 68% 実績 59%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算延利用者数	420	440	440	420	460	440	520	520	520	500	480	540
実績延利用者数	212	216	239	274	296	276	277	273	307	297	325	364
稼働率	50.5%	49.1%	54.3%	65.2%	64.3%	62.7%	53.3%	52.5%	59.0%	59.4%	67.7%	67.4%

風の音サテライト史 目標稼働率 92.6% 実績 95.5%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受入可能延利用者数	570	589	570	589	589	570	589	570	589	589	532	589
実績延利用者数	490	581	509	562	570	551	581	541	574	565	515	589
稼働率	86.0%	98.6%	89.3%	95.4%	96.8%	96.7%	98.6%	94.9%	97.5%	95.9%	96.8%	100.0%
平均介護度	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2
1日現入居者数	16	19	19	18	19	18	19	19	19	19	18	19

## I 十符・風の音

### I-1 長期部門

#### 1、目標

法令遵守。 達成

→施設職員としてコンプライアンスを意識し適切に行動しています。

#### 2、具体的取組

①入居者が健康でいられるよう、感染対策を徹底します。 達成

→感染に対する知識を学び、正しい対策をとることで感染者を出すことなく経過することができました。

②他職種との情報共有がスムーズに行えるような環境を作ります。 達成

③ご家族へ情報提供を定期的に行えるよう方法を検討します。 達成

→ご家族の方に合わせた提供方法を、ユニットごとに考え対応できました。

④ユニットリーダーが軸となり課題に取り組みます。 達成

⑤学ぶ姿勢を持ち、知識や技術を習得します。 未達成

→学ぶ機会が少なかったです。次年度は自ら学ぶ姿勢を持ち、職員へ伝達していきます。

#### 3、全体の総括

今年度も感染症により制限を強いられる中、これまでとは異なった方法や活動に取り組み、結果を残せた事例が多々ありました。コロナ過でも取り組み方により、入居者の皆様に安心し、喜んでただけることができたことを自信につなげられたら良いと思います。課題に残った部分の振り返りを行い、次年度達成できるように出来ればと思います。

### I-2 生活相談員

#### 1、目標

空室期間を少なくします。 未達成

→実調を重ねても早く空いた施設への入居決定や、コロナに罹患し入居が遅れたケースまた、空きを待っている間にご逝去されるケースもあり、実調を重ねても入居に結び付く

までに時間がかかってしまいました。

## 2、具体的取組

①入居申込者に対し迅速な実調を計画します。 未達成

→調整がうまくいかず、迅速に進めることができませんでした。

②入居希望者・ご家族への丁寧な説明を心掛けます。 達成

③空室ユニットの状況を把握し、新規入居者を検討します。 達成

→入居者の自立度や空き部屋の位置などを把握し、検討を進めることができました。

④利府町地域福祉部の担当職員にも参加してもらい、情報収集や助言を頂きます。達成

## 3、全体の総括

空所期間を短くし、稼働率を下げないことが目標でしたが、1ヶ月近くあいてしまったお部屋もあり、入居に結び付くまでの難しさを感じました。入居申込者の減少や、医療度の高い方、認知症状の強い方など、うまく調整できない部分もあり、次年度は新たな取り組みも考えつつ、入居を進めていく必要があることを考えさせられた1年でもありました。

## 4、2022年度入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居者	1	3	1	1	0	0	2	1	1	2	3	1	16
退居者	3	1	1	0	0	2	2	1	2	2	1	0	15

## I-3 施設ケアマネジャー

### 1、目標

・入居者の「在宅生活からの継続」を念頭に置き、自己決定が尊重されサービスの選択ができるような生活が送れるようなケアプランの作成に努めます。 達成

・ターミナル期においては、ご家族が心残り無くご本人を送り出せる様に、医師のムンテラ開催や書類作成及び介護員等による手厚い介護の実施、居室での面会が実現できる様に行動します。 未達成

→数名の方の看取りを行った中で1件のケースに自分自身納得が行っていない状況です。自分で「生きたい」「医療を受けたい」と訴える利用者様の看取りを経験し「看取り」について改めて考えさせられました。「本人主体」の介護や看護に出来る限り近づける努力を実施してゆけたらと思います。

### 2、具体的取組

①ケア記録や看護記録の閲覧を実施し情報収集を行うと共に介護職、看護師より口頭での確認を行います。また、ご家族とのやり取り等ケア記録に入力することで情報共有を図ります。 達成

②サービス担当者会議開催のご案内時に、参加の有無や意向の確認を行いケアプランに反映をさせます。 達成

- ③利用者の状況により、緊急でご家族との話し合いが必要な場合は随時開催。 達成
- ④認知症や権利擁護、看取りケア等についての研修に参加し見識を広めます。 達成

#### I-4 ユニットリーダー

##### 1、目標

・リーダー会議を報告の場だけとせず、各ユニットの情報共有、問題提起、意見交換をする場とします。 未達成

→報告の場となっていました。悩みや問題を聞いてもすぐには出てきませんでした。

##### 2、具体的取組

①リーダー会議を各ユニットが取り組んで良かったことや抱えている問題の共有する場、施設全体で改善しなければならない問題を話し合い解決する場とします。家族からの声や事故の対策などユニットで検討した内容を報告し今後に活かせる場にします。

②リーダー会議を意見を言い合える場にします。 未達成

→昨年度より意識してできていたが、積極的な意見交換はできていなかったです。

③職員へ新しい情報を伝えるため外部の研修へ参加し、リーダー会議やユニット会議内で内容の周知を行います。 達成

④会議内で勉強会を開催します。 達成

⑤各職員へ能力に合わせた助言や教育が出来るように情報の伝達、説明能力、判断力向上に努めます。 未達成

→リーダー全員が職員の育成の難しさを感じているようです。会議内で意見交換します。

##### 3、全体の総括

リーダー会議内で悩みや問題を聞いても、すぐには出てきづらいようでした。今後は事前に悩みを記載しておくなど工夫が必要です。リーダーシップ勉強会以降、各団の取り組みを発表する場を設けているので、今後は各ユニットにも目を向けて意見交換していきます。

##### 4、行事予定

4月：	10月：
5月：マニュアル見直し	11月：勉強会準備
6月：	12月：
7月：	1月：事業計画作成、認知症勉強会
8月：	2月：ユニット費交渉、リーダー勉強会
9月：事業計画振り返り（中間報告作成）	3月：事業報告作成

## II ショートステイ部門

### II-1 生活相談員

#### 1、目標

・利用中の希望に耳を傾け、安心して泊まる事が出来る環境を作ります。達成

・目標の稼働率を維持できるようにします。達成

→利用中必ず1人1人とお話する時間を作っています。そして必要に応じてご本人の声をユニットへ伝え安心して泊まるように対応しました。

10月から増床しロングショートや新規の方を積極的に受け入れるように努め稼働率維持ができました。

## 2、具体的取組み

①実調の際に家での過ごし方を細かく把握し、各部署に伝え、同じケアを提供できるようにします。 達成

②ケアマネジャーに送る利用状況報告書の内容を見直し、写真を添付し、より様子が分かるものにしていきます。 達成

③その方に合った環境整備を行い、事故防止に努めます。未達成

④ヒヤリハットを有効に活用し、対策を立てます。未達成

⑤本人・家族の希望に丁寧に対応します未達成

→骨折事故2件、苦情が2件ありました。また、職員の対応や声かけにご指摘を受けることもありました。様々な状態の方がご利用されるからこそコミュニケーション能力の向上がより一層求められることを痛感しました。来年度も事故や苦情発生時には迅速かつ丁寧な対応を継続します。また、職員全体で日頃のコミュニケーション能力向上を目指して行きます。

⑥個々の楽しみや、やりたい事を見出し寄り添ったケアを行います。達成

→散歩や中庭での作業、計算問題・塗り絵等ご本人の希望に沿った物を提供し楽しみのある生活の提供ができました。また、認知症の強い方の不安感にきちんと寄り添いながら過ごしていただけるように努めました。

## 3、全体の総括

今年度は増床に伴い、昨年度と比べると10名以上多くの新規利用者との出会いがありました。利用に慣れ、安心して過ごしてもらえられるように努めました。

一方で、定期利用の方から職員の対応や声かけ等にご指摘を受ける場面がいつもより多くありました。これまで良いケアをしていても一つの出来事が一気に不信感につながってしまうこと、信頼を回復するには関係を築き上げてきた以上の努力が必要になってくることを強く感じました。

来年度から本格的に2ユニットでの稼働となります。稼働を上げれば必然的に日々の入退所だけでも忙しくなります。それを理由にケアの質が落ちないようにしていきます。一人一人の力量は高いと思います。その力を十分発揮するにはやはりチームワークが重要です。「初心忘るべからず」。声をかけあい、補いあい、チーム力で利用者、ご家族に向き合っていきます。

#### 4、2022 年度新規利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
新規利用者数 (名)	3 名	0 名	1 名	3 名	1 名	5 名
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
新規利用者数 (名)	5 名	1 名	8 名	3 名	2 名	5 名

#### 5、2022 年キャンセル状況

	施設 入居	他SS 利用	入院中	体調 不良	本人の 不安	家族の 都合	日程 変更	病院 受診	死亡	利用中 退所	その他	計	キャンセル 前年比	カバー日数	カバー率
4月	0	0	18	8	1	11	22	2	0	0	14	76	92%	140	184.2%
5月	17	0	15	2	2	7	6	0	0	0	4	53	79%	72	135.8%
6月	39	0	24	5	0	13	12	0	0	0	25	118	142%	93	78.8%
7月	34	0	16	14	0	5	2	0	0	0	11	82	117%	91	111.0%
8月	0	6	17	0	0	4	0	0	0	10	14	51	64%	79	154.9%
9月	0	6	35	0	7	3	8	0	0	0	15	74	94%	88	118.9%
10月	0	4	26	5	0	4	5	1	0	0	13	58	77%	138	237.9%
11月	5	0	18	15	0	5	9	1	2	0	30	85	99%	134	157.6%
12月	6	2	43	10	0	14	2	2	13	0	6	98	158%	173	176.5%
1月	22	0	38	5	0	28	8	0	14	4	26	145	142%	123	84.8%
2月	46	6	35	4	0	18	25	0	4	0	21	159	145%	139	87.4%
3月	63	25	12	0	2	6	0	0	0	0	8	116	132%	232	200.0%
日数計	232	49	279	60	11	107	77	4	33	14	173	1115	113%	1362	144.00%

### Ⅲデイサービスセンター木の実

#### 1. 目標

・穏やかで落ち着いたのある時間や空間を提供して、利用者が自己実現を図ることが出来るようにケアを実践します。 達成

→ホール内の席配置や機能訓練やレク活動のスペース配置を明確にして、利用者が把握しやすい環境を一に整えました。自分たちで活動する目的を持って頂きました。

・余暇支援、レクリエーション活動、機能訓練を重視して、利用者の身体機能が維持・向上できるように支援します。 達成

→「健康王国」を5月よりレンタルし、音楽療法を活用した機能訓練を実践しました。映像を見ながら運動することで利用者も身体の動きが解りやすくなって喜んで活動出来ました。

#### 2、具体的取組

①利用者の生活の質の向上と日常生活動作の維持や向上が出来るように、機能訓練や軽運動、余暇活動での生活リハビリに積極的に取り組みます。 達成

②利用者のプライバシーを守りながら入浴介助や排泄介助を実践し、特に羞恥心への配慮を怠らず、安心感のあるケアの実現に向けて努力します。 達成

③多職種との連携を密にした取り組みを行います。家族や担当ケアマネジャーと情報共有を行い、利用者の状態報告を怠らないようにします。利用者も家族も安心して利用できるように連絡帳での報告を充実させます。 達成

→担当 CM や家族に出来事や体調を随時報告し連携を図ることができました。

④自事業所内においては、すべての職種で利用者の状態についてケース検討会や申し送りの場で情報交換と共有を行い、利用者の支援に対する意思統一を図ります。 達成

→毎月ケース会議を開催して情報を共有しながら職員間の意思統一を図りながら、利用者との関わり方や声掛けの仕方などに工夫することができました。

⑤介護事故を未然に防ぐようにヒヤリハット事例の検討会の開催や、転倒や誤嚥に対するリスクマネジメントの学習を積極的に行います。 達成

→毎月の職員会議において、事例検討を行い転倒リスクの回避や見守りを強化する意識付けを行いました。

⑥苦情が聞かれないサービス提供に努めることが重要ですが、万が一にも苦情が聞かれた場合は、その苦情を真摯に受け止めること、速やかな謝罪と改善方法を報告して再発の防止に繋げることに努力します。 達成

### 3、2022 年度稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規利用者	2	0	2	5	0	2	1	1	4	2	5	1
平均介護度	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4	1.5	1.5	1.5	1.5

※終了者（2022/4～2023/3 まで 14 名）

### 4、全体の総括

2022 年 10 月より土曜日を開所することができて、新たに利用登録者も増えはじめ、稼働も徐々に上げることが出来ました。また、利用者の健康や筋力を維持できる機能訓練の実施に力を入れました。

利用者からも楽しく利用できていると意見が聞かれたり、次の利用日が待ち遠しいという言葉が聞かれたことが運営の成果として挙げられます。

### 5、行事実施報告

4月：お花見茶会	8月：夏祭り	12月：柚湯、クリスマス会
5月：菖蒲湯、春の運動会	9月：敬老を祝う会	1月：新年会
6月：手作りおやつⅠ	10月：秋の運動会	2月：節分・鬼退治豆まき
7月：七夕飾りづくり	11月：手作りおやつⅡ	3月：桃の節句・茶話会

## IV 各部署

### IV-1 医務部門

#### 1、目標

・入居者、利用者が安心、安全、健康で暮らしていけるよう援助していきます。 達成

・ご家族が医療上の事を相談しやすい環境を整えていきます。 達成

→入居者の状態が悪化している場合、嘱託医に診察してもらい、その結果をご家族へ報告し、ご家族の意向を確認することが出来ました。また、受診にご家族の付き添いが必要な

場合、ご家族と連絡を取り日程調整をすることが出来ました。

## 2、具体的取組

①他職種とコミュニケーションを取り入居者、利用者の情報共有に取り組みます。 達成

②嘱託医と連携を取り、常に相談出来る関係を築きます。 達成

③入居者、利用者の状態変化時、事故などの時十分な説明を行います。 達成

④医療的アドバイスを行っていきます。 達成

→褥瘡予防の体交、血圧測定的时间、創傷の軟膏塗布など医療的アドバイスを介護士へ行うことが出来ました。また、陰部に発疹がある入居者の陰部洗浄を介護士と一緒にすることが出来ました。看取りの面会の際、入居者とコミュニケーションを多く取れるように、ご家族にもおやつ介助や声がけをしてもらうように促すことが出来ました。

⑤予防接種が円滑に行えるよう努めます。 達成

## 3、全体の総括

他職種、嘱託医と連携を取り入居者が安心、安全に暮らせるように努めることが出来ました。看取りに関しても、ご家族、介護士と一緒に、入居者が最期まで穏やかに過ごせるように支援することが出来ました。次年度も継続していきます。また、感染対策もしっかりと行い、感染症の予防に努めます。

## 4、活動報告

4月	入居者定期採血	8月	医務会議	12月	コロナワクチン接種
5月		9月		1月	
6月	医務会議	10月	入居者定期採血、 看取り勉強会	2月	医務会議
7月	職員定期健診、コロナ ワクチン接種	11月	インフルエンザ予 防接種、入居者定 期レントゲン撮 影、医務会議	3月	

## IV-2 食養

### 1、目標

- ・入居者・利用者ひとりひとりの生活史に寄り添い、楽しめる食事・行事を提供します。
- ・コミュニケーションを取りながら、安全を意識し日々の業務を行います。達成

### 2、具体的取組

①サービス担当者会議や日々のミールラウンドで、多職種連携のもと意見交換を行いながらひとりひとりに合わせた食事を提供できるよう努めます。 達成

②サービス担当者会議や面会等の場で家族とコミュニケーションを図り、入居者・利用者の嗜好やそれまでの食の歴史を把握し、楽しめる食事・行事の提供が行えるよう努めます。 未達成



→一部の家族とは交流が出来たが、入居者の食の歴史を把握するまでには至りませんでした。食養主体の行事やレクリエーションも実施できませんでした。

③食養内で意見交換を行い、それぞれの意見を尊重し合いながら業務の改善に努めます。  
達成

### 3、全体の総括

入居者や職員とコミュニケーションを取り、嗜好や生活史に配慮した栄養管理を行うことができました。来年度は新型コロナウイルスの規制緩和で少しずつ再開できることが増えてくると思います。入居者に十符・風の音での生活を楽しんでいただけるような食に関連する行事やレクリエーションを計画していきたいと思います。

### 4、行事状況報告

- ・食養部門会議（毎月）
- ・全国の郷土料理提供（随時）
- ・行事食（リーフレット・メニューカード作成）

## IV-3 事務部門

### 1、目標

- ・利用者・職員・ご家族から信頼される事務職員を目指します。 達成
- ・事務職員として必要な知識のスキルアップを図ります。 達成

### 2、具体的取組

①経営状況について職責・リーダーに伝えて共有し、今後の経営方針についての検討・提案を行います。 達成

②修繕情報等を共有し、少しでも早く対応します。必要に応じて他職種や本部とも情報共有します。 未達成

→大規模な工事が行われる中で情報共有に努めたものの不十分なところがあり、利用者・職員に不便をかけたため、連携をはかって修繕対応に取り組みます。

③施設の窓口として、接遇に気を付けた対応を行ないます。 達成

④ご家族からの問い合わせに対し素早く対応できるように、日々変化する情報の収集に努めます。 未達成

→把握しきれない部分もあり、確認に時間がかかる場面もあったため、より一層情報の収集・共有に努めます。

⑤オンライン研修や事務研修への参加等を含め、必要な知識を深めるように努めます。 達成

### 3、全体の総括

外部の研修には出られなかったものの、事務研修を通じてスキルアップを図り、補正予算方針の作成や経営資料の変更などに活かすことが出来ました。しかしながら空調・ナースコールの更新などの対応の中で情報共有や連携が不十分なところもあったため、次年度以降の修繕対応等の際に今回の経験を活かしていきたいと思います。

#### IV-4 LSA（ライフサポートアドバイザー）事業

##### 1、目標

町営住宅に住む高齢者世帯の方々に必要なサポートができるよう、利府町と連携を図ります。達成

##### 2、具体的取組

①葉山シルバーハウジングとその他の利府町営住宅への訪問を行い、入居されている方の健康と生活状態を確認し、毎月利府町へ報告します。達成

②年4回、利府町都市整備課、保健福祉課、地域包括支援センターとのLSA定例会議に参加し情報共有を図ります。達成

③定例会議だけではなく、必要に応じて利府町に相談・情報共有を行なっていきます。達成

④様々な相談に対応できるよう、介護保険をはじめとする制度関係やインフォーマルな社会資源等の知識を高めます。達成

⑤訪問日に不在の方には、おたよりを投函し、いつでも相談できるような環境を作ります。未達成

→おたよりを投函した月もありましたが、投函し忘れることもありました。ただ、以前お渡ししていたお便りや名刺を見て、相談の連絡をくれる事はありました。いつでも相談できる関係性を築いて行きたいと思います。

##### 3、全体の総括

コロナ渦で外出する機会や場所が減り、自宅で過ごされることにより、体力・筋力の低下や人との関りが希薄になることで、認知症の症状も徐々に出てきている方もいました。LSA定例会議だけではなく、それぞれの事業所が気になる方について情報共有をすることで、支援に繋げることもできたと思います。

#### IV-5 ボランティアコーディネーター

##### 1、目標

入居者の生活が豊かになるようにします。未達成

##### 2、具体的取組

①窓越しで行事に参加できるような工夫をしていきたいと思っています。未達成

→ボランティアに声がけをしましたが、窓越しでは難しいと断られ実現できませんでした。

②少人数での教室の開催等を行い、楽しみが見つけれられるようにしていきます。未達成  
→ボランティアの受入自体が出来ない状況で、オンラインでの教室の開催を試みましたが、ボランティア側がオンラインを繋げることが難しく、行なうことができませんでした。

③ボランティア委員会の中で、ボランティアについての勉強会を開催し、知識を深めてい

きます。 達成

### 3、全体の総括

ボランティアと直接会わずに、何かできないか検討しましたが、実現までは至りませんでした。入居者の生活が豊かになれるよう何ができるのか今後も検討し、実現できるようにしていきたいと思います。

ボランティア委員会では、ボランティアの必要性について勉強会をし、意見を言い合いました。来年度も勉強会を継続し、職員と意思統一を図り、受け入れ態勢を整えていきたいと思います。

## V サテライト史

### VI-1 長期入居

#### 1、目標

・入居者、家族、職員の顔の見える関係を作ります。 達成

→入居者の状態変化に合わせて、面会等検討を行いながら関係づくりをすることができています。

#### 2、具体的取組

①情報共有の方法を工夫しながら、家族とのかかわりを考えます。 達成

②日頃の挨拶を行い、気持ちよく働ける職場作りを心がけます。 達成

③入居者の状態に合わせ、職員配置を変更していきます。 達成

→入居者の状態に合わせて、職員の配置を検討しながら取り組んでいます。

④内部研修、外部研修を開催します。 達成

→年間で予定されていた学習に加えて、今必要とされている学習を行うことができています。

⑤今だからできること、楽しめること、喜べることに取り組みます。 未達成

→外出や内部の行事を開催し始めていますが、今行きたいね、食べたいねの思いには届きませんでした。

#### 3、全体の総括

外部の講師を招いて、学習会の開催やスキルアップに取り組んでいます。

職員間で声をかけながら、入居者の生活支援を行えています。

コロナ感染症対策の緩和に伴い、外出の再開、家族との面会様式の変更を行いながらの1年間となっています。ボランティアの受け入れ再開までは行えていません。

### VI-2 施設ケアマネジャー

#### 1、目標

・現状と今後の生活について確認できる話し合いの場を作ります。 達成

→状態変化に合わせて会議を開催し、対応方法や今後のリスク面、今後の生活について

話し合いを行うことができています。

## 2、具体的取組

①必要時、嘱託医に相談しご家族との話し合いの場を作ります。 達成

→嘱託医から家族への状態説明2件行われています。

②外部研修に参加し、ケアマネのスキル向上に努めます。 達成

③地域の関係機関、地域住民とのつながりを作り、困っているときの橋渡しが行えるようにします。 達成

→介護について、困っている方への相談をおこない、可能であれば関係機関との連絡を取り合うことが出来ています。

## 3、全体の総括

現状と今後の対応について確認し、必要であれば嘱託医に伝達をおこない、これからの暮らしを検討することが出来ています。

## 4、活動報告

- ・サービス担当者会議 49件（内状態変化に伴い開催 6件）
- ・介護保険更新 10件

## デイサービスセンターくりこまの里

2022年度は経営の安定を図るという目標を掲げていましたが、新型コロナウイルス感染拡大による事業所の一時休業、また目標に対してのPDCAを取り組めていなかったことにより収入が伸び悩み目標未達成となりました。また、予算管理など経営面での討議ができず不安定な経営状態で一年が経過しています。その反省を踏まえ、予算と必要利益の管理を正確に行い新しい職員体制で安定した経営基盤づくりと、自立した組織を目標に職員一人一人が取り組んでいけるようすすめていきます。

### I 事業規模

#### 1. 各月ごとの利用者数と収入

##### 1) デイサービス I

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27
定員	25	25	25	25	30	30	30	30	30	30	30	30
利用者実績数	609	628	599	569	559	562	577	467	577	542	534	609
利用者／日	23.4	24.2	23.0	21.1	21.5	21.6	22.2	18.0	22.2	22.6	22.3	22.6
稼働率	93.7	96.6	92.2	84.3	71.7	72.1	74.0	59.9	74.0	75.3	74.2	75.2
収入(円)	4,809	5,173	4,876	4,599	4,493	4,576	4,827	3,750	4,857	4,469	4,488	4,945

##### 2) デイサービス II

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
利用者実績数	74	88	108	117	102	84	79	75	108	100	106	116
利用者／日	2.8	3.4	4.2	4.3	3.9	3.2	3.0	2.9	4.3	4.2	4.4	4.3
稼働率	23.7	28.2	34.6	36.1	32.7	26.9	25.3	24.0	36.0	34.7	36.8	35.8
収入(千円)	1,114	1,103	1,943	2,136	2,043	2,041	2,150	1,780	1,827	1,712	1,712	2,134

3) 居宅介護事業所(支援含む)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
収入(千円)	687	719	697	684	716	698	747	747	765	742	752	771

II. 各事業所・部門別

1. デイサービスセンター I

1) 利用者動向

① サービス利用開始・終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	3	2	1	2	2	1	2	0	1	3	1	1	20
サービス利用終了者数	2	1	2	0	2	0	0	0	1	3	1	2	14

② サービス利用終了の理由

理由	永眠	施設入所・入院	認知症型移行	他のデイに	転居	不調	ショート中心に	その他	合計
人数	5	8	1						14

<目標>

・ I 型 稼働率 80% (85~90%最終目標)

II 型 稼働率 50% (60%最終目標)

職員体制も不安定だったこと、営業活動を行えなかった事があり新規の獲得もできず達成できません  
でした。

- ・ 利用者の自己選択、自己実現できるサービスを実践します。
- ・ 運動や活動を通じて、自然に集まる和みの空間を提供していきます。

<具体的取り組み>

- ① 「活動計画」を利用者様との会話から意見を取り入れ作成し実施していきます。
  - ・ 利用人数が少ない日や職員の人数により対応ができない日には、こまフロアを開けることができないことが多くこまフロアを活用出来ませんでした。
  - ・ 活動の一つでドライブを桜の時期や紅葉の時期に合わせて計画しご利用者様に好評でした。満遍なく日数が取れ参加出来ない利用者様はおりませんでした。
  - ・ 季節感が味わえる行事を行う事が出来ています。
- ② リハビリ体操やラジオ体操に参加して頂きます。
  - ・ リハビリ体操やラジオ体操を毎回行うことで、身体を動かす機会となりました。

- ・リズム体操や指体操を取り入れ楽しみながら身体を動かす事が出来ています。
- ③ 利用者の情報を職員間で周知し、共有します。
- ・アセスメントシートや引継ぎ簿を使用し情報の共有を行えています。
- ・定期的な会議での情報交換やカンファレンスにより情報共有を行えました。

## 1. デイサービスセンターⅡ

### 2) 利用者動向

#### ① サービス利用開始・終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	0	2	3	0	0	2	0	1	2	0	0	1	11
サービス利用終了者数	1	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	1	7

#### ② サービス利用終了の理由

理由	死亡	施設入所・入院	他のデイに	転居	不調	ショート中心に	その他	合計
人数	0	4	2				1	7

<目標>

Ⅱ型 稼働率 50% (60%最終目標)

職員体制も不安定だったこと、営業活動を行えなかった事があり新規の獲得もできず達成できませんでした。

- ・利用者の個性に合わせた対応を行ない安心して過ごせる環境をつくります。
- ・利用者の情報を収集・共有し、統一したケアをします。

<具体的取り組み>

- ① 利用者一人一人と向き合い、興味や得意な事を引き出し個性に合わせた対応をします。
  - ・興味や得意な事を知るまでに時間はかかりましたが、様々な活動を通し利用者様と向き合う事が出来ています。
- ② 利用者の情報を職員間で周知し、共有します。
  - ・アセスメントシートや引継ぎ簿を使用し情報の共有を行えています。
  - ・定期的な会議での情報交換やカンファレンスにより情報共有を行えました。
- ③ 体操やゲーム、脳トレーニングを通し機能低下防止します。
  - ・ゲームや脳トレーニングを嫌がる利用者様もいらっしゃり、無理をせずゆっくりと対応する事により少しずつ活動に参加された利用者様もおりました。

## 公益部門

### 1 指定居宅介護支援事業所

#### 1) 利用者動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
支援開始数	3	2	0	2	2	3	3	1	1	1	3	4
支援終了数	0	1	1	0	0	3	1	1	1	0	0	2

#### 支援終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
死亡の為		1	1			1		1	1			2
入所／入院						2	1					
他事業所利用												

#### <方針>

- ・介護保険の改正点を熟知し、法令順守に努めます。
- ・ご利用者様、家族に適切なサービスの提案、情報提供を行い在宅生活の支援を行います。

#### <具体的取り組み>

- ① 研修への参加を通し、介護保険情報を周知していきます。
  - ・今年度は新型コロナウイルスの感染予防のために研修自体が例年に比べ激減していた。外部研修参加は市開催の虐待対応研修一つにとどまったが、新聞やネットなどから介護保険情報に注視して居宅内で共有することができた。
- ② 個別ニーズを支援できるよう、関係事業所との連携を強化します。
  - ・高齢者の心身状態は常に変化が伴うため、モニタリング時に限らず必要時は関係事業所との情報共有に努めることができた。
- ③ ご利用者様、家族との信頼関係をつくり、在宅生活の支援者として適切な業務遂行を行います。
  - ・サービスをつなぐことだけでなく、ご利用者様の生活全体をみることで課題を見極めその人が望む生活に近づけられるよう努めた。
- ④ 事業所内、併設施設との協力体制を強化していきます。
  - ・併設事業所からの必要な情報が届いてこないことがあり、こちらからの情報の引き出し方の検討も必要と感じられた。

## II 苦情

苦情 0件

苦情はありませんでしたが、今後も丁寧な対応を心がけます。

## III 消防防災計画

- ・避難訓練は計画通り開催しています。
- ・防火設備点検を、定期に実施しました。



## 介護老人福祉施設 田子のまち

新型コロナウイルス感染症の施設内での感染発生があり、感染対応を行いました。入居者の皆様にご迷惑をおかけしたとともに、ご家族の皆様にもご心配をおかけいたしました。

事前に感染発生時に備えた研修として、ゾーニングの考え方の整理や、ガウンテクニックやごみの捨て方の訓練、業務削減の基準などや業務手順などを定めており、大いに役に立ちました。課題も残りましたが修正すべき点を、修正を行いながら対応を進めることが出来たことが、大きな感染拡大にならなかった要因と振り返っています。

経営活動では年間稼働率 96.5%となり、目標の 96.25%を達成し、施設開所以来初、めて目標を達成することが出来ました。また、職員体制においても退職が減少しつつあり、短期入所を 10床から再開させています。安定した経営に向けた取り組みへ向けて進めてきましたが、物価と光熱費の高騰により大きな赤字となっています。12月から再開した短期入所では『自由に楽しく安心して過ごせる場所～優しさあふれるショートステイ』という花梨の目標を決め、職員が気持ちを1つに準備を進めてきました。事前の想定不足による対応の滞りもありましたが、その後の改善につなげています。多くの利用を頂き、目標利用率を上回り改めて短期入所が地域で必要とされている事業であることが分かりました。

職員育成活動では、一昨年度開始した新入職員の研修制度の継続、数年ぶりの全職員会議や各種研修会での実践報告、現場の中で職員が育てられる職場づくりへの努力を行ってきました。研修や職場づくりにも力を入れて取り組みました。普段から入居者の皆さんの希望に寄り添うケアの実践を大事にし、それを行うことが職員育成に繋がっています。年度末に職員の退職もあり職場体制は厳しくなっています。退職を防ぐためにはどうしたらいいか改めて考える機会となりました。私たちの仕事は単なる決められた時間に勤務すればいい業務ではなく、職員が入居者の皆さんの思いに寄り添いケアを行い関係を築くことで、またやりがい感じられる取り組みやそれが感じられるような、丁寧なフィードバックが必要です。

昨年に引き続き高校生の夏のボランティア受け入れや介護養成校からの実習受け入れも行いました。ミャンマーからの技能実習生の受入も各ユニットにて本人たちの前向きさもあり順調に進んでいます。

介護保険制度は 2024 年に向けてさらなる改悪が議論されてきましたが、大きな改悪が見送られる見通しとなりました。職員及びご家族の皆様からいただきました署名は 474 筆と過去最高になりました。職員も制度の学習活動に取り組みました。制度改悪をさせずに安心して皆さんが老後を迎えられるような活動も引き続き進めていき

「二度とないこの瞬間(とき)を、“あなたらしく”輝ける場所に」という施設理念のもと、職員一人一人が自分の行動の基準となり、共通の指針となるよう、普段の実践や研修などを通じ引き続き取り組みます。

【2022 年度稼働率・平均介護度】 上段…月 中段…稼働率 下段…平均介護度

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
97.3	96.9	97.5	97.7	96.5	95.9	95.5	95.2	96.5	93.0	97.6	98.7
3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9

【要介護度別】

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0名	1名	25名	37名	17名

【保険者別】

仙台市	多賀城市	塩釜市	柴田町	七ヶ浜町	石巻市	気仙沼市
58名	7名	9名	1名	1名	1名	1名
岩沼市	東松島市					
1名	1名					

【性別・平均年齢】

	人数	平均年齢(3月末時)	最少年齢	最高年齢
男性	14名	84.3歳	70歳	95歳
女性	66名	87.1歳	64歳	101歳
計	80名	86.6歳		

【入退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	2名	0名	3名	1名	2名	1名	3名	2名	3名	3名	2名	1名
退居	2名	2名	1名	2名	3名	0名	3名	2名	4名	2名	1名	0名

【短期入所】 上段…月 中段…稼働率 下段…平均介護度 (10床計算)

12月	1月	2月	3月
47.8	60.6	81.0	74.5
2.5	2.3	2.5	2.4

【施設ケアマネジャー】

1、2022 年度総括

今年度は楽しみや喜びが一つでも増やせるようなケアプラン作りを心掛けました。出来るだけ入居者様やご家族の想いを汲み取れるように意識はしたつもりですが、結果的には守りのプランが多くなってしまったように感じます。ケアマネジャーが要望を聞き取った

り汲み取ったりするだけではなく、日頃からそばで様子を見ているユニット職員にも入居者様の「楽しみ」「生きがい」を今まで以上に見つけて関わってもらえるように、介護職として見るべき視点を伝えていきたいです。そして、それを24時間シートや記録に落とし込んで職員全員で共有し、ケアプランに繋げていきたいと思えます。

また、今年度は施設とご家族との日頃のやりとりについて、ユニットが中心となって行えるようにサポートしました。ご家族は施設職員からの報告がご本人の様子を知る大きな情報源となります。施設側がチームで対応できる体制を強化し、信頼関係が維持できるように対応していく取り組みが大切です。出勤している職員が誰であっても、ご家族ともやり取りがスムーズに行えるように、さらに必要な場面で必要な職種がご家族と直接やり取りができるように、サポート・調整していきます。

## 2、2022年度取り組み

- ① 認定更新申請について、仙台市17名、多賀城市3名、塩竈市2名、七ヶ浜町・岩沼市各1名、計24名行いました。区分変更については1名の申請を行いました。
- ② 定例のサービス担当者会議以外（新規入居、本プラン移行、退院、看取り移行等）の担当者会議は57回開催し、そのうちご家族様の参加は7割程度でした。
- ③ ケアマネジャー主催で看取りについての勉強会を開催しました。
- ④ 自己研鑽のため、外部研修会（仙台市主催の介護認定調査員現任研修会、仙台市老施協主催の居宅・施設ケアマネジャー研修会等）に参加しました。

## 【医務】

### 1、2022年度総括

本年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の対策が重要な年になりました。全国的にも感染症による病床の逼迫が報道されていましたが、入居者様の救急搬送時にも搬送先が直ぐに決まらず救急搬送困難事案が数件あり、医療機関のみでなく救急隊などとの連携にも苦慮しました。しかし、嘱託医の協力もあり、必要な受診や検査・施設内で提供出来る医療や状態変化時・看取り期の面談への連携がスムーズに行われ、これまでよりも安心・安全な医療の提供出来ました。

施設内での新型コロナウイルス感染症の感染者が発生し、これまで作成していたマニュアルや対応の不足部分や、勉強会で行っていても徹底までに至っていなかった部分については都度対応の訂正や周知を行い、大きな拡大に至らなかったのは職責を中心とした対策や対応が行え、情報共有や振り返りができた事が良かったと思えます。今後も各種感染対策は続きますが全職員が協力して行っていきたいと思えます。

職員の体制は昨年に引き続き厳しい状況は変わらず、短期間での職員の入れ替わり、業務が分担できず職員に負荷がかかっている状況ではありましたが、各部署や多職種から協力もあり進めてくる事ができた事には感謝し、今後も連携を大切にしていきたいと思えます。

## 2、2022年度取り組み

- ① 感染症への対応・感染症対策の周知徹底を行いました。
- ② 協力医療機関や嘱託医と連携し、円滑に医療の提供を行いました。
- ③ 多職種との情報共有に努めました。

### 【食養】

#### 1、2022年度総括

今年度は昨年度に改善したことを更に見直しつつ、それぞれの業務に取り組んだ1年でした。

厨房の業務については、1月に保健所の一斉点検があったことで明確になった業務もあり、今までよりも根拠のある中で安全で衛生的な業務が行えるようになりました。また改善した業務がその後支障なく行えているかの確認や補修が必要な場合の検討は、食養会議の場だけではなく、いつでも話し合える環境に整ってきました。

栄養士の業務については、年々入居者様との関わりを持つことが増えてきました。特に看取り対応の入居者様には、栄養士として今何ができるかを深く考え悩んだ1年でもありました。

#### 2、2022年度取り組み

- ① 新規入居者様の食事摂取状況の確認や食事介助などに積極的に介入しました。
- ② 入居者様おひとりおひとりの状態に合った栄養管理をするため、サービス担当者会議やユニット会議に参加し、他職種と討議し情報を共有できるよう努めました。また月に1回の季節のおやつでは、旬のフルーツやデザートを提供し入居者様が「食」を楽しんで頂けるよう取り組みました。
- ③ 委託業者とは検食簿の所見を共有することを継続し、委託業者が行うアンケートに積極的に協力するなど、良好に連携が図れるよう努めました。
- ④ 食養会議では、安全で衛生的に且つ効率的な作業が行えるよう業務を見直しました。また、食中毒と感染症についての勉強会を行い知識の向上に努めること、手洗いチェッカーを活用して普段の手洗いの仕方を見直すことが出来ました。
- ⑤ 非常食は5日分を確保し、払出しやその補充も計画的に行いました。また、職員用の非常食を確保することとなり、3日分の備蓄と献立を整えました。

### 【事務】

#### 1、2022年度総括

この1年、田子のまち事業計画の「全職員参加の経営」を進める為、事務の役割と課題について改めて考え、「的確な経営状況の把握と予算管理」を第一の目標に掲げ業務に取り組みました。経営報告書は、必要利益を意識して分析し、その時々課題を考え提案することに努めました。職責者が知りたい情報・数字は何か、同じ目標に向かって同じモチベーショ

ンで討議検討する方法は何か、リーダー職には先ず報告書を見てほしい、更に読んでもらう為には、、とたくさん悩みました。しかし今年度は会議や研修など職責者で意見交換を行う機会も多く、経営に対しての考えや思い、それぞれの職種から課題を聞いたことが、資料作成にとても役立ち、作成する上でとも励みになりました。また、コロナ感染時のBCP作成にあたり、事務業務の洗い出しを行いました。一日、一月、年単位で分けて考え、細かいところまで仕事の内容を整理することが出来ました。今後作成した資料を活用し業務の漏れを防ぎ、役割、期限等をしっかり把握し計画的に職務を遂行したいと思います。今まで見えにくかった他の職種の業務内容も共有することが出来たことで多職種間の協力体制も強化されたと感じています。施設整備に関しては突発的な修理もあり、予算通りにいかない面も多数ありました。必要利益を正確に把握するためにも施設全体を見直し、設備関係の買替え、修繕については出来るだけ正確に計画を立てることが急務だと感じています。

事務員の大きな役割である社会保障運動の推進ですが、コロナ感染の影響で財政活動は行えませんでした。介護署名に集中するという委員会の目標達成の為、グループセッションやリーダー会議を活用し、事務からの発信も工夫し職員やご家族へ署名への協力を求めました。昨年度を上回る筆数を獲得出来ました。

これからも法人理念と施設理念をいつも念頭に置き、社会情勢を意識して福祉・介護の発展のために事務員の役割を果たしたいと思います。

## 2、2022年度取り組み

- ① 職責会議での経営報告は「見やすくわかりやすく伝える」ことを重視して内容を改善し、予算作成にあたり今後の方針を提案し職責間の経営討議に活用しました。
- ② 予算に基づいた修繕・整備を行い、除草作業、車両清掃、窓・網戸清掃を業務委託し施設の整備に努めました。ユニット清掃は年1回しか行えませんでした。
- ③ 財政活動はコロナ感染状況により休止のため、署名活動に集中し、職員と入居者様ご家族への署名依頼を行いました。
- ④ 本部事務局の学習会へ参加し、綱領や方針について感想交流を行いました。

## 【研修】

### 1、2022年度総括

昨年度、必要な研修回数を行えていないということがあり、仙台市からの指導を受けました。コロナ禍で開催出来ない月もあり、予定通りいきませんでした。だからと言って行わなくてもよいわけではなく、どうやったら出来るかというのを考えなければならなかったと反省しました。今年度は、それを改善し、計画から開催までをサポートしました。しかし、コロナ感染対応のユニットが続いたことにより、年度末にかけて勉強会が重なってしまいました。来年度は、その場合も想定し、代替案も考えておき対応出来るようにしていきたいと思います。

リーダー研修は現在4名が講義・演習のみ終了となっています。来年度は実施研修への参

加が可能になった際に、勤務調整がスムーズに出来るようサポートしていきたいと思いません。貴重なユニットリーダー研修ですので、研修後の伝達研修環境も整えたいと思います。

職員から「個別のスキルアップの学習を増やして欲しい」との意見がありました。来年度は、外部研修の情報を職員に伝え、各自が選択して参加出来るよう、そしてそれが自身の成長に繋がるよう、一緒に進めていきたいと思いません。

## 2、2022年度取り組み

- ① 研修計画に沿って進められているか確認し、開催が遅れているものは声を掛け、開催のサポートをしました。
- ② 各委員会内やユニット会議内で開催し、多くの職員が同じ内容を学べるようにしました。
- ③ 報告書提出の期限を決め、主催者に伝えました。参照資料もデータや紙で保管できるようにまとめました。

月	内容	参加人数
4月	看取りについて（看取り期のサイン、ケア・対応方法）	37名
5月		
6月	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	16名
7月	身体拘束廃止	35名
	ポジショニングについて	40名
8月	コロナウイルス感染症 BCP シミュレーション	49名
9月	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	38名
	感染性胃腸炎について	45名
	リスクマネジメント（夜間捜索訓練）	6名
10月	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	23名
	食中毒について	46名
	リスクマネジメント（誤薬事故）について	9名
11月	リスクマネジメント（誤薬事故）について	41名
12月	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	37名
1月	インフルエンザについて	
	リスクマネジメント（KYT～危険予知トレーニング）	
2月	認知症について	
3月	身体拘束廃止について	
	リスクマネジメント（夜間捜索時マニュアル・訓練）	

※（ ）内は参加者数を表しています。

## 乳銀杏保育園

2022年度、乳銀杏保育園の運営を以下の通り行いました。

### 1. 事業規模

#### (1) 入所児童数 定員 120名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
1歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
2歳	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22
3歳	22	22	22	22	22	23	23	23	23	23	23	23
4歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	22	22	22
5歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
合計	120	120	120	120	121	122	122	122	122	123	123	123

- ・短時間認定児の在籍はありませんでした。
- ・4/1時点では2歳児1名欠員で合計120名の在籍でした。7/16に2歳児1名、9/13に3歳児1名、12/16に4歳児1名の途中入所があり、年間を通じて定員を充足できました。

#### (2) クラス編成

- ・計画通りのクラス編成で保育を行いました。3歳児クラス担任をパート職員で配置しました。
- ・4・5歳児クラスに在籍する3名の特別支援保育対象児の担当職員を2クラスに1名の配置とし、4歳児クラスは1人担任としました。クラスを超え連携した保育実践に取り組みました。
- ・一時預かり事業については、人材確保ができず再開できませんでした。

#### (3) 職員体制

- ・正規職員1名が6月初めより産休に入りました。代替は4月に臨時職員を採用して対応しました。パート職員1名の7月からの産休は職員補充なしで対応しました。
- ・コロナウイルス感染拡大の影響により、職員が自宅待機等になることが何度かありました。随時、職員体制を検討し対応しました。

#### (4) 業務分担

- ・計画通り業務分担を行い、保育や運営にあたりました。
- ・管理部内の役割分担と連携をして園運営を行いました。必要に応じてパートリーダー会議等を行い、園内の課題の共有と解決の取り組みにつなげるようにしました。

#### (5) 保育事業内容

- ・基本的運営は、公定価格に基づいた委託費と各種補助金・利用料（延長保育・主食代・一時預かり・休日保育）によります。2022年度の保育事業収入は以下の通りです。

委託費収入	公定価格・副食費・処遇改善加算Ⅰ・Ⅱ17%・単価改定分 所長・3歳児配置改善・主任専任・事務・療育加算 休日・入所児童処遇改善(106万)・栄養管理加算 施設機能強化推進費(16万)・処遇改善特例補助金(Ⅲ)
私立保育所等助成	増員保育士・調理員・障害児等保育(5名)
栄養士・看護師雇用助成	
延長保育事業収入	補助金+利用料
休日保育事業収入	補助金+利用料
一時預かり保育事業収入	補助金+利用料 *休日分のみ
その他 補助金	就労スタートアップ事業補助金、キャリアアップ研修参加支援助成金、病原性大腸菌 対策助成金、コロナウイルス感染症対策、食材費・燃料費高騰対策補助金

・特別保育事業は、乳児保育・特別支援保育・延長保育・休日保育事業を行いました。各事業については以下の通りです。

- ①乳児保育は、1年を通して12名の乳児を受け入れました。
- ②特別支援保育は、対象児が3歳児2名、4歳児2名、5歳児1名の計5名でした。3歳児クラスに1名、4・5歳児2クラスにまたがって1名の担当職員を配置しました。
- ③延長保育利用人数は平均11名。日によって人数のバラつきが多くなっています。昨年度以上に利用人数が減少しています。
- ④休日保育利用人数は平均7名。昨年度より法人内保育園の職員が交代で保育を担当して事業を実施しています。HPへの掲載やチラシの配布などを行い、低年齢の1歳児の利用希望にもできるだけ対応しましたが、延利用人数は455名で、昨年度実績よりもさらに減少しました。

## (6) 設備・環境

- ・保育活動に必要な教材や環境を整え、児童の安全と健康を守るために必要な設備や環境の整備を行いました。
- ・2022年度(R4)仙台市老朽化施設等対策事業への申請を検討しましたが、費用の高騰などにより断念しました。
- ・2022年度の主な施設・設備の整備状況は以下の通りです。  
北側地中排水管破損修繕工事 給食室換気扇交換工事  
建物老朽度等調査 凍結破損修繕(北側給食室給水管・幼児組テラス手洗い場)
- ・その他 など随時対応

## 2. 保育内容

### (1) 保育内容

- ・各クラスで担任保育士を中心に、子どもの発達を十分に理解し、年齢毎の遊びや課題別の活動を充実させ、生活や遊びを通じて一人ひとりの成長発達と関係性の育ちを促し、



子どもたちが喜びや達成感を得られるように保育を行いました。

- ・今年度は担任の持ち上がりが少ない中で、どのクラスも保育者が子どもにかかわってとらえるということをしっかり取り組みました。発達や子どもの姿や保育環境に応じてねらいをもち、「意識的に」「計画的に(くり返し)」取り組むことの重要性も確認できました。
- ・いわゆる「不適切保育」を防ぎ、子どもの人権を尊重する保育の実践のために、研修と保育の振り返りを行いました。日々の実践から、様々な保育者が子どもにかかわり、子ども同士もかかわりあうこと、職員が連携しチームで保育することが重要だと確認されました。
- ・障害児等保育の対象は4歳児2名・5歳児2名でした。発達への援助とともに、クラスの仲間と育ちあう関係づくりを大切に取り組みました。また、各クラスで気になる子へ働きかけと、各機関と連携しての保護者への丁寧なアプローチの実践がみられました。

#### (2) 行事

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度同様に内容を変更して実施しました。各行事のねらいを確認しながら、子どもにとって必要なこと・楽しいことを選び取り、保護者への理解と協力を求めながら、職員の明るい雰囲気を中心に前向きに取り組みました。
- ・行事の取り組みの様子やねらいなどをお便りや当日の解説などで保護者に伝えるよう意識しました。

#### (3) 給食

- ・栄養士1名調理員3名の給食職員と連携しながら、アレルギー対応(6名)を行い、年齢発達に応じた美味しい給食の提供、食べる喜びを育てる食育活動に取り組みました。
- ・給食職員会議を定期的実施しました。主任も参加し、業務の確認や見直しだけでなく、絵本をテーマにしたメニューや残食の多い食材の調理方法の工夫などに取り組みました。給食職員が現場の保育者や子どもたちの反応を感じ、手ごたえをもって業務にあたることを目指しました。

#### (4) 健康・安全

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、手洗い・水分補給・常時換気などの感染症予防の取り組みを継続して行いました。感染状況に応じ3・4・5歳児クラスでのマスクの着用やクラス別保育の実施など期間を限定して対策を強化しました。感染拡大により、仙台市と協議の上、各年齢で一部休園を実施しました(6月・8月・12月)。その他の感染症では、胃腸炎の流行が2月頃見られ保健所に報告しました。
- ・子ども達が健康で安全に過ごせるように、日々の健康状態を観察し、快適に生活できるようにしました。健康管理として年2回の健康診断と年1回の歯科検診を行いました。
- ・受診が必要なケガは7件でした。多くは顔のひっかけ傷や転倒時の口唇部裂傷・打撲・肘内障などですが、左脛骨粉碎骨折が1件ありました。保育者が抱きかかえた児童を下す際にバランスを崩し負荷をかけてしまったことが原因と考えられるケースで、重大事故と

して自治体に報告しました。

- ・散歩中の安全確保のため、散歩コースの点検と注意事項の確認を行いました。
- ・月1回の地震や火災に備える訓練に加え、不審者対応訓練、散歩中の地震訓練や災害時の夜間保育や避難所設営の訓練も行いました。

### 3. 保護者支援と連携

#### (1) 保護者の状況

- ・102世帯中、非課税世帯9、一人親家庭7世帯です。複雑な家庭環境や、精神疾患を抱えた保護者、コロナ禍による経済的な困難など様々な状況がありますが、一見すると困難が見えにくいケースがほとんどでした。管理部や担任を中心に見守りを行い、必要に応じて関係機関と連携して対応しました。
- ・苦情は5件でした。事故や怪我への園の対応、職員の子どもへの対応についての意見でした。不十分であった点を謝罪し、職員研修を実施するなどして対応改善に努めました。

#### (2) 保護者との連携

- ・今年度も、コロナ禍により行事や懇談会などが少なくなったため、限られた機会に意識的に保護者に保育を伝えるように伝える工夫をしてきました。日常的な職員の明るく・生き生きとした態度や丁寧な対応、写真の掲示やお便りの発行を職員全体で意識的に取り組みました。
- ・保護者会活動は、役員会に園長が参加し園の状況等を報告しました。行事の縮小などで、活動はほとんどできませんでしたが、役員や保護者を中心に運営の工夫や会費の見直しを行いました。新たな業者による布団乾燥を再開しました。

#### (3) 保護者アンケート

- ・行事後アンケートと、年度末の保護者アンケートを行いました。
- ・年度末の保護者アンケートについては昨年同様、①保育理念・方針・ねらいに沿った保育活動が行われていると感じているか ②保育のねらい等や子どもたちの姿が伝わっているか ③保護者が、子どもたちの様子や園の雰囲気・職員の態度から安心できているのかというポイントで、保育理念・方針に沿った保育活動が行われたかどうかを、自己評価する指標として実施しました。
- ・アンケート結果は75%の回収率でした。自由記述欄も励ましの記述がほとんどで、かなりの高評価となりました。

### 4. 職員の研修と評価

- ・全職研修等では、「学びの土台作り」「アプローチカリキュラム」について学習しました。今取り組んでいる保育実践の中にある「教育」の視点を意識化することができ、0歳児期から就学までの継続性やつながりを理解することができました。
- ・昨年度から学んできた「絵本」については、具体的な実践やエピソードをクラス便りや園

便りに掲載して保護者に発信することに取り組みました。保育のねらいが保護者に伝わり、保護者アンケートでも「保育の中で絵本を大事にしていること」が高評価でした。

- ・クラス会議等では、発達や活動について学び、クラスの課題を明らかにし、ねらいと方針をもって実践できるようにしました。
- ・年2回の総括会議では、前期は若手職員を中心に自分の保育を振り返り、まとめて発表しました。後期は「子どもの気持ちをわかりたい」というテーマで保育者自身の悩みや迷いも率直に出しあって保育を語りました。どちらも感染拡大の時期と重なりましたが、自分の保育や思いを言語化し、集团的に討議し学びあうことができました。
- ・WEB研修を活用し、どの職員も参加できるよう計画し、一人ひとりが意識的に研修に取り組みました。
- ・保問研夏季セミナー、日本発達支援学会、季刊保育問題研究などへの論文や実践発表等が複数あり、職員の実践研究の成果が見られました。
- ・パート職員と管理部との月1回の会議を実施し、全体職員会議の報告や研修を行いました。職員面談を随時行い、共通理解を深め、連携して保育を行えるようにしました。

## 5. 小学校や地域との連携

- ・全年齢を通しての系統的な保育実践や保護者との面談、関係機関との連携により、子ども自身や保護者が、就学への期待と見通しを持てるように取り組みました。
- ・2022年度卒園児24名が就学する小学校へ、幼・保・小連絡会資料や「保育所児童保育要録」の送付などを通して、子どもの育ちの連続性がつくれるよう連携しました。
- ・必要に応じて、児童クラブ利用予定について児童館との引き継ぎを行いました。
- ・「あそぼう会」は感染拡大の影響で実施できませんでした。宮城野児童館の幼児クラブに参加し、育児相談などの役割を果たしました。園見学は参加人数を限定し年14回実施し60名以上の参加がありました。HPや見学等による印象が入所申込につながるケースも多く、園の方針や特色を理解したうえでの入園者を増やす意味で重要な取り組みとして継続していきます。

## 6. 2022年度の総括

### 【質の向上】

- ・職員会議や研修を通じ、子ども理解を深め「子どもを主人公にする保育」を追求し、「自我の育ち」と「仲間の中で育ちあう関係づくり」を大切に実践を積み重ねました。
- ・「保育の中に絵本を位置づける」「アプローチカリキュラムについての研修を行い、保育における教育の視点を意識化する」などのテーマを持って、研修と実践に取り組みました。
- ・新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波は、保育現場にも大きな影響を与えました。施設内での感染拡大により、一部休園も複数回ありました。そういった困難な中でも、職員が協力し合い、保護者の温かい理解と協力のもと事業を進めてくる事が出来ました。

#### 【職員育成】

- ・今年度も、管理部やリーダー職員を中心に、経験や立場に応じた役割分担と集団的な討議による運営を意識してきました。各種研修や園内での学習や実践検討にも積極的に取り組み、多くの職員が学習に参加しました。一方、感染拡大等による疲労やストレスから体調を崩す職員も複数あり、職員が自身の成長を実感しながら生き生きと働き続けるための対策を引き続き工夫して進めていく必要性も感じました。

#### 【経営改善】

- ・年間を通して定員 120 名を超える児童を確保できました。保育の状況を現場と相談しながら、幼児組を中心に途中入所を積極的に受け入れることができました。
- ・管理部を中心に、見学対応やHP更新、休日保育事業のチラシ配布などを行いました。
- ・年度初めには、2022 年度仙台市老朽化施設等対策事業への申請を予定しましたが、社会情勢の影響もあり費用の高騰が見込まれ、申請見送りとなりました。しかし、今年度も複数の修繕が必要になるなど、施設の老朽対策は深刻であり、対応の検討が必要です。

#### 【社会保障運動】

- ・特に、平和と保育制度の問題を中心に情勢を学び、署名やアピール活動に取り組みました。ウクライナ支援カンパではオリジナルバッジを作成し楽しく取り組みました。全職などでの「運動意義と自分達の生活を結び付ける」学習や自分の言葉で語り合うグループワークを取り入れました。コロナ禍では活動の制限もありましたが、今後は活動の工夫をしながら保護者や外部とつながって取り組みを進めていきます。

## 柳生もりの子保育園

### 1、事業規模

#### (1) 入所児童

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
2歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
3歳	21	22	22	22	22	22	22	22	22	22	21	21	261
4歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
5歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
合計	118	119	119	119	119	119	119	119	119	119	118	118	1425

・4月16日付けで3歳児1名入園し119名になりましたが1月末に2名退園し、0歳児の補充はできましたが3歳児1名入園希望がなく2・3月は118名で推移し平均119名でした。

・標準認定児童は、平均117名。短時間認定児童は4月2名のみでした。

### 2 職員体制

- ・今年度、主任体制を2人体制、副主任1名、園長の新たな管理部体制で運営を行いました。主任2名が保育園全体の運営に見通しを持ちクラス担任と会議を持ちながらクラス運営を行いました。
- ・クラスは予定通り8クラスを編成し、7月に入り正規保育士が産休に入り、そのクラスには6時間のパート保育士を配置、夕方は主任が補充し調整して運営しました。
- ・延長保育時間の19:15番のパート保育士の求人を年間通して募集しましたが、補充できず常勤職員が交代で勤務しました。また、夕方早番補充の保育士も年間通して行いましたが応募はあるものの採用まではつながりませんでした。夕方の保育を園全体で見まわし常勤職員で調整や超勤で対応しました。

### 3. 保育事業内容

- ・基本的運営は、公定価格に基づいた委託費と各種補助金・利用料収入（延長保育料・主食費・副食費）が入りました。

委託費	128,515,370	園児平均119名
特別支援保育助成	4,958,400	園児5名
増員保育士助成等事業補助金	4,008,000	

栄養士雇用助成	274,800	
看護師雇用助成	1,388,400	
障害児保育円滑化事業	500,000	
病原性大腸菌対策消耗品購入・検便補助助成金	151,670	
児童福祉施設等食材費補助金	249,900	
児童施設等食材料費補助金	249,900	
キャリアアップ補助金	46,000	
保育士等スタートアップ事業費補助金	174,996	対象者 3 名
延長保育事業	2,439,900	補助金 + 利用料収入
3 歳未満児保育施設との連携に係る増員	614,400	
私立保育所等新型コロナウイルス感染症対策支援補助金	500,000	
福祉施設等電気・ガス等価格高騰対策補助金	1,440,000	
3 歳以上児の主食・副食費	2,686,500	

- ・特別保育は乳児保育、特別支援保育、延長保育を行いました。
- ・乳児保育は年間 12 名の保育を行いました。
- ・特別支援保育は年間 5 名の保育を行い、対象児は 3 歳児 1 名、4 歳児 2 名、5 歳児 2 名でした。4 歳児と 5 歳児に担当保育者を 1 名ずつ配置しクラス担任や管理部と保育を検討しながら保育を行いました。
- ・延長保育は、月平均 7 名の利用がありました。

#### \*職員の業務分担

- ・日々の保育を主任と副主任が担任と相談し、キャリアアップ役割を確認して行いましたが充分でない部分もあり、日々の保育を検討しながら運営を行いました。
- ・会計は事務員が日々の経理を行い、自治体への補助金申請、請求、実績は園長が行い、事務員と確認しながら経理を行いました。補助金申請について年度末に不備が分かり複数で管理することを確認しました
- ・給食・食育活動は管理栄養士が中心となり、給食職員と地産地消の食材を使用して給食を作りました。また、後期は保育士と共同で絵本給食（絵本の題材のおやつや給食）に取り組みました。子どもも食前に興味を持って話を聞き、食べものへの関心が広がりました。
- ・保健業務は看護師が全クラスを見回り、投薬や怪我の対応、保護者への出欠確認と通院の対応など行いました。保健だよりは年間 6 号発行しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の対策は自治体の通達や法人内でも検討し、園内の感染対策を行い、園の対応を保護者に伝えお子さんの健康観察を行いながら運営を行いました。2022 年度の感染は年間通して園児は 72 名、職員は 20 名が感染しました。そのほか濃厚接触

者として待機する状況もありました。保育園の運営について仙台市とその都度協議を行い、クラス閉鎖は9回、保育園の休園は1回ありました。

運営について職員の感染が複数いると厳しい状況がありました。そこで園内で職員体制の調整と超勤対応でなんとか運営を行いました。

#### \*設備・環境・保育材料

- ・保育活動に必要な教材を購入計画に基づいて主任と副主任が担任と相談して購入しました。しかし、1,2月に教材購入について振り返り、急ぎ購入したために、経理処理に忙しさがあり、計画的な管理を期ごとに見直しを行うことが大切と反省しました。
- ・2022年度は、主に以下の修繕や整備を行いました。  
大型遊具交換（クモの巣ネット）、年2回ワックス塗布（業者を変更）、2歳児クラスの床Å1コーティング施工の再施工、火災通報装置交換、外壁看板を新デザインで取り付け、引き戸の修繕、エアコン2台清掃（過去3年間で主要部分のエアコン清掃終了）を行いました。

#### \*保育内容

- ・子ども一人一人を丁寧に捉える関わりを保育者一人一人が意識し、クラス会議で子どもの課題やクラスの課題を検討して具体的な保育の手立てを計画しながら実践を行いました。支援の必要な子どもと気になる子どもの丁寧な捉えと表現の仕方が荒々しくても、子ども自身が発達の要求を持っている意識を忘れないよう、保育園全体での検討を行い保育を作ってきた。

#### \*行事

- ・運動会、クリスマス子ども会、卒園式を計画し全クラスを対象に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行で未満児クラスは中止を判断しました。そこで、未満児クラス運動会（職員と子ども）を企画し写真掲示を行いました。幼児組は感染症の大きな流行がなく日程通りに行うことが出来ました。行事については一人一人の子どもを丁寧に捉え子ども同士の関係性を築きながら取り組みを行いました。
- ・年2回予定したクラス懇談会は感染予防に努めながら、開催できました。保育の様子を伝えるため写真や動画を撮影して懇談会で披露しました。
- ・夏まつりウィークは職員と子どもで行いましたが、新型コロナウイルス感染症が流行し最終日を延期して9月に行いました。遠足ごっこは感染予防のため中止にしました。

#### \*保護者の状況

- ・保護者の状況は非課税世帯が10世帯、ひとり親家庭は7世帯あります。幼児組で副食費免除の家庭は非課税世帯の10家庭を含めて17世帯あります。その中に口座引き落としではなく少し時期をずらして支払う家庭が2家庭あります。保育料滞納や副食費を滞納する家庭はありませんが、一定経済的に苦労している家庭があるのではないかと推測しています。
- ・保護者の状況は、要保護支援児童、保護者の精神疾患など支援の必要な家庭が複数あり、

保健師と定期的に情報交換を行っています。

- ・保護者アンケートを年度末に行い 89 世帯中 44 世帯から回答を頂きました。新型コロナウイルス感染症の発生で今年度は 7 月～1 月にかけてから子どもの職員もコロナに感染しクラス閉鎖が続き何度もクラス閉鎖を判断する状況がありました。そのことで、未満児クラスの保護者から予定していた行事の中止等で丁寧なお知らせがないと不満の声が寄せられました。3年間のコロナ禍の中でできる保育の工夫を迷いながらも行ってきましたが、保護者が実際に保育を見たい思いを感じます。保育の様子について動画や写真を撮って懇談会で披露し様子を各クラスで伝えるよう努力しました。
- ・幼児組の行事の取り組みでは、保育の意図をお便り等で伝えていますが、伝わりにくい面も今回のアンケートでは見えました。保護者の要望が寄せられる面が強くみられる傾向が一定あります。今年度も子どもがクラスの子も達と育ち合う姿について分かりやすく伝えることの大事さを感じました。一方では子ども同士の関わりやクラスでの育ち合う姿が伝わたり、小さいクラスの保護者が大きなクラスの様子を読み我が子の成長も見通せるように楽しみにして下さる家庭もあります。そのことは全職員で自信を持ち、これからも子ども達の育ち合う姿を伝え続けていきたいと思えます。

#### \* 苦情について

- ・苦情は 5 件ありました。新型コロナウイルス感染症流行時にご家庭での保育の協力お願いの話し方に負担感を感じることやその他にも保育園のお願いに対する知らせ方にもっと丁寧な説明をしてほしいなど、園の方針を伝える際に保護者に分かりやすく丁寧な配慮を求められました。もう 1 件は土曜日の薬の依頼について確認がありました。必要な薬は曜日に関係なく預かることを職員に周知しました。職員に周知し対応の仕方について確認を行いました。

#### \* 安全管理

- ・通院する事故は 11 件でした。転んで歯や口の擦過傷や打撲、転んで頭部をぶつけ受診し、観察を行いました。多くの事故は走って床に転ぶ事故になる傾向がありました。職員会議で経過を共有し事故防止について職員間で確認を行いました。

#### \* 安全管理

- ・安全管理について毎月の全体職員会議で、ヒヤリハットや事故記録を報告、振り返り、事故防止の意識を各職員が持つよう、対策を行いました。
- ・毎月の避難訓練(火災・不審者・洪水)と消火器訓練を各曜日と様々な時間で行いました。副主任と主任が責任者になって行う訓練も行いました。

#### 3、職員の研修と評価

- ・キャリアアップ研修をズームで計画通り行いました。
- ・毎月の職員会議で全体学習を行い、クラス単位で各年齢ごとの学習を行い保育方針を持って、クラス運営を行いました。また、キャリアパスに基づき職員に任命してクラスに責任を持って保育を行いました。しかし、保育園全体を見通して意識したチーム保育について



は、管理部としての支援と指導に力不足を感じることもありました。

- ・園内、園外、法人研修に各職員が学習できるよう計画し参加しました。コロナ禍でズームでの開催が多くほぼ計画した通り参加して学習を行いました。ただ、参加報告を回覧が多く、職員皆で学習を聞く機会が薄くなっていたと反省しています。自発的に学習する機会は新型コロナウイルス感染予防の意識もありなかなか園以外の学ぶ場への参加に躊躇もあり、職員の要望を聞き研修を企画しました。
- ・コーディネーター研修を受けた主任、副主任、リーダー職員の3名が中心となり、特別支援児童5名の保育方針を振り返る会議を行い、検討する場を持つことで保育を振り返り、クラスの保育を作る手立てを一緒に考え実践を行いました。
- ・パート職員とクラスや園の保育方針を伝え、パート職員の悩みを集団で話し合う機会は春にのみ行いました。その他は書面で報告を行いました。

#### 4、今年度の重点事項

- ・2人の主任と副主任が、役割分担を持って全クラスの様子を掴み、個々の職員やクラスの保育を一緒に考えていく立場で支援を行いました。各クラス担任はクラスの保育に責任を持って保育を一生懸命行いました。子ども一人一人を丁寧に掴もうとする姿勢を持ち続けていけるように保育を振り返り実践を行いました。
- ・今年度は個別配慮の必要な特別支援児童2名を含めた保育や子ども同士の関わりあいについて、保育園全体で保育を作っていくことを強く求められた1年間でした。様々な表現をする中でも子ども自身を温かく見守り保育をしていく姿勢を保育園全体で問われた1年でもありました。また、その保育について保育園内で討議と方向性を検討しましたが、専門家(南部アーチル)に来園して頂き子どもやクラスの保育を観察して保育の見通しを考える機会を作りました。
- ・保育園全体で保育を作っていく職員同士のコミュニケーションやチーム保育の意識化は検討してきましたが、力不足を感じます。次年度に取り組んでいきたいと思えます。

## 古川ももの木保育園

2022年度は定員90名に対し101名でスタートしました。0歳児12名定員のところに8名の入所、また2歳児も定員に対し2名の空きがあったので大崎市と相談しながら入所を待ちました。0歳児は早い段階で定員数に達しましたが、2歳児の応募がなく数か月開いている状況でした。その後2,3歳児と募集を変更したところ、兄弟入所の応募がありました。しかし、今年度は例年以上に引っ越しや転勤による途中退園も多く、その都度途中入所児童数を増やし、年間を通し変動の多い園児数でした。

### 1.事業規模

#### (1) 入所児数

定員90名に対し4月は101名、8クラスで行いました

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	8	8	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	134
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
2歳	19	19	19	19	19	19	20	20	20	20	20	20	234
3歳	20	20	20	20	20	20	21	20	20	20	20	20	241
4歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
5歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
合計	101	101	103	103	104	104	107	106	106	106	106	106	1257

#### (2) 職員体制

正規職員は、保育士16名、栄養士1名、事務員1名、園長1名、パート職員は保育士7名・事務員1名・看護師1名・調理員4名・用務1名の計15名、総数33名体制で行いました。他に嘱託医として内科医師・歯科医師各1名となりました。

	保育士	栄養士	調理員	看護師	園長	事務.用務	合計
正規職員	16	1			1	1	19
臨時・契約職員							
パート 6.0H	1		2				3
パート 5.0H	1					2	3
パート 4.0H	4 (延長1)		1	1			6

パート 3.0H	1						1
パート 2.5H	1						1
合計	2 4	1	3	1	1	3	3 3

### (3) 保育事業内容

- ① 基本的運営費は、公定価格に基づいた委託費収入と大崎市補助金収入、保護者からの利用料収入（延長保育利用料・3歳以上児主・副食費代）でした。
- ② 特別保育事業は、延長保育・標準時間（1時間延長）短時間（2時間延長）を実施しました。地域活動事業（世代間交流・遊ぼう会等）は新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施できませんでした。

### (4) 職員の業務分担と役割

- ① 園長は主任保育士と協力し、総括的指揮をとりました。  
主任保育士と副主任保育士は協力して、クラス会議等に参加し保育内容等保育全般を把握し、また職員間の関係及び保護者との関係が円滑にすすむよう努めました。日々の業務管理は主任保育士が行い、クラスリーダーは、クラス運営を実行するにあたり子どもたちの姿や発達を捉えながら保育運営を行いました。また、子どもたちの安心・安全な保育のために管理部や職員間で連携をとりながら日々奮闘してきました。
- ② 食育については、栄養士と協力し、今迄のコロナ禍の食育実践を土台としながら、安全に配慮し（消毒・マスク・個別に・換気・自分の分は自分で作る等）計画的に行い、食べる喜びや調理する達成感を感じることが出来ました。地産食材をいかした献立、伝統的な献立を取り入れ、安全・安心な給食に取り組みました。
- ③ 保健業務については、看護師は園長・主任と連携しながら園児の健康管理・保護者支援と体調不良児、アレルギー児の個別対応などを行いました。また、換気を細目に行い、園内や玩具の消毒を毎日実施し感染防止に努めました。
- ④ 経理・総務事業を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないように努めることができました。
- ⑤ 保育室・園庭・遊具等の安全や環境整備を、用務職員と管理部が協力して維持管理を行いました。みつばちぐみ園庭や医務室の整備を行いました。また、ネジが緩んでいる箇所等は即時に修繕しました。

### (5) 設備・環境・保育材料について

- ① 保育や行事に必要な設備の充実と教材・玩具・絵本や図鑑等の購入を計画的に進め発達に応じた使い方や設定、環境づくりに努めました。
- ② 19年目を迎えるにあたり、0歳児のテーブル付椅子や5歳児のテーブルの購入を計画的に進め、園内の安全対策と環境整備に努めました。
- ③ 園庭の安全点検を心がけました。また散歩コースは再度安全確認を行いさらに散歩

先では遊ぶ前に職員が見回り、不審物がないか見回りをしたりごみを拾ったり、安全を確認した後に遊びました。

## 2. 保育内容

### (1) 保育目標と主な行事

- ① 児童憲章及び児童福祉法の精神のもと、子どもの最善の利益を守り、子どもたちの心身の健やかな育ちを保障するよう保育指針をもとに計画を立ててきました。各年齢にそった活動を通して、しっかりした自我をもち仲間とともに育ち合い、豊かな知的興味と感性を育てる保育を大切にしてきました。

### ② 行事予定

月	主な行事	月	主な行事
4月	入園式・父母懇談会・内科健診	10月	運動会(入れ替え制)・総合避難訓練・内科健診
5月	子どもの日祭り	11月	収穫祭(乳児・幼児分けて)
6月	総合避難訓練 歯科検診	12月	クリスマス会(幼児組)・クリスマス会ごっこ(乳児組)・クリスマスWEEK・餅つき会
7月	夏まつり WEEK	1月	歯科検診・父母懇談会(懇談会後おやつ参観)・保育参観
8月	保育参加(中止)	2月	節分豆まき会・父母懇談会
9月	5歳児お泊り会(泊まらない) 秋の散歩と青空給食(3・4歳児)	3月	ひな祭り会・卒園式(卒園児と保護者)・修了進級式

月例行事：誕生会(乳児幼児分かれて)・地域交流活動「あそぼう会」は中止・避難訓練

### (2) 保育方針

- ① 一人ひとりが健康で安全安心に過ごせるように、日々の健康状態を観察し年齢に応じた適切な養護と衛生管理に努めました。健康管理として、内科健診と歯科検診は通常通り年2回行いました。感染症対策として、日々の手洗い・うがい・保育室の換気・加湿(冬期)・消毒を行うなど年間を通し衛生管理に取り組んできました。保育室の換気は細目に行いました。
- ② 子どもの思いや気持ちを丁寧にくみ取ることで、子ども一人ひとりが安心して自分を表現し、子ども自身が主体となる生活づくりを大事にしてきました。
- ③ 職員一人ひとりが子どもの発達を十分理解し、職員同士見通しを持ち保育にあたりました。また、クラスの年間計画を柱に、子どもの姿を捉えながら各年齢ごとの活動や遊びを充実させました。
- ④ 父母懇談会は保護者同士がつながれるように、内容や時間配分を検討し、換気や保

護者間の距離をとるなど、感染対策を徹底しながら行いました。どの保護者も子どもの様子をうれしそうに見たり、保護者同士の話に微笑んだりとても楽しそうに参加していました。コロナ禍の育児講座は中止にしました。

保育参加は、午前の活動時間と懇談会後のおやつ参観と人数を分けて行うことができました。久しぶりの参観でどの保護者もうれしそうに参加していました。行事は新型コロナウイルス感染対策を行いながら「親子で楽しもう」をテーマとして計画実践しました。運動会で幼児部の親子競技を再開し、乳児部の親子が楽しめるようにクリスマス WEEK や職員によるクリスマスコンサートを設けるなど、どの親子も笑顔で楽しいでいる様子がありました。

- ⑤ 栽培活動については、土づくりから行い、1年間見通しを持ちながら保育士が中心となり、栄養士と協力して栽培活動を進めてきました。
- クッキングは昨今実践したコロナ禍クッキングを土台としながら実施しました。収穫した野菜を見て友だちと喜び合ったり、作ったものを見せ合ったり、クッキングを行いながら友だちと気持ちを通い合わせ、またいつもと違う活動に喜びを感じながら行いました。

### (3) 安全管理

- ① 職場会議等でマニュアルの確認を行い安全管理について全職員の理解に努めました。
- ② 災害対策として、毎月の避難訓練と年1回の不審者対策訓練、年2回の総合避難訓練を計画通り行いました。水害訓練は密になるため、行うことができませんでした。
- ③ 不審者対策・安全対策のため、散歩計画書を提出し携帯電話を持ち事務室に散歩先人数を報告してから散歩に行く等安全に配慮をしました。

### 3.保護者との連携・支援

- ① 保護者の思いに寄り添いながら、子どもの姿を真ん中に日々丁寧に話をすることを大切にしながら、保護者支援を行いました。また、職員間で保護者の置かれている状況を共有しながら、クラスを超えて支援できるよう配慮してきました。
- ② 父母懇談会では、保育園での子どもの姿や父母の悩みを振り返り保護者の思いに寄り添うことで、子育てに前向きになったり他の保護者と同じ思いを共有し安心したりする姿がみられました。また、短時間での保育参加を行い久しぶりの保育の様子を微笑ましく見ている姿がありました。
- ③ 今の時代だからこそ保護者の背景を踏まえつつ、保護者に対し、わかりやすく子育ての知識を伝えられるようみんなで話し合いました。
- ④ 育児講座は中止にしました。
- ⑤ 保護者支援が必要な家庭があり子育て支援課の相談員や保健師と連携をとり情報を共有しながら対応にしてきました。次年度も引き続きその子の姿を丁寧に捉えながら支援していきます。

#### 4. 職員の研修と評価

- ① 法人理念に基づいた保育や、子どもの人権を大切にする保育とはどういう事かを、職員全体で学びました。各部会で場面記録検討を位置づけ、職員一人ひとりが丁寧に子どもの内面を捉えながら保育をしてきました。
- ② クラス会議などで各年齢ごとの発達の特徴を学び、担任間で子どもの理解を共通のものにしていけるようにしました。また、全体的な学習は学習係りを中心としながら計画的に行ってきました。
- ③ WEBによるキャリアパス研修に参加しました。他にも、WEB研修を重視した研修に参加し、資質向上に努めました。
- ④ 自己評価シートを活用し、職員一人ひとりが自分の保育を振り返り、資質向上に努めていけるよう、またしっかり評価を行った上で、一人ひとり役割を明確に話し、意識をして取り組めるよう職員面談を行いました。
- ⑤ 新入職員がいなかったため、OJT研修は行いませんでした。
- ⑥ 保育制度、社会保障などの情勢について積極的に学び、法人社保会議を土台としながら、園内社保委員を中心に学習を位置づけ運動することができました。

#### 5. 小学校や地域との連携

- ① 園・地域の行事や、5歳児の老人施設との交流など、今年度はコロナウイルス感染拡大に伴い行いませんでした。
- ② 保育では、午睡なしの時間を活用し、アプローチカリキュラムを活用しました。保・幼・小連絡会や要録の伝え合いに参加し、より良い小学校生活が始まるように連携をとりました。また、気になる子、保護者が気にしている子については、保護者と連携をとりながら事前に小学校と連携をとって、学校見学を行うなどの配慮を行いました。
- ③ 保育実習生は例年通り受け入れました。また、中高生の職場体験・ボランティアの受け入れなど先方からの依頼はありませんでした。

#### 6. 今年度の重点事項

- ① 「伝え合う保育とは」を今年度のテーマとして学習係りを中心としながら取り組んできました。文献をもとに学習係りを中心として職場会議の中で学習を進め、グループワークを行い、内容を深めてきました。職員の経験年数により「伝え合う」の捉えが違っていることもわかりました。保護者、保育者、子どもとの関係の中で“伝える”だけでなく、伝え合える関係づくりをこれからも大切にしていきたい。
- ② 「場面記録」を今年度も活用し各部会で検討してきました。子ども一人ひとりのことをクラス担任だけではなく、職員みんなで考えることができました。若い職員も自分の思っていることや聞きたいことを率直に話したり、経験のある職員がアドバ

イスをしたり、すぐに保育に活かすことができました。

- ③ コロナ禍によりコミュニケーションの場が少ない状況は続きました。そのような中、職員によるクリスマスコンサートを開催しました。親子でひと時を楽しんでほしいとの思いからはじめたものですが、企画後は職員同士主体的に話をし、練習をしたり笑い合ったりする姿があり、職員同士のつながりの場になったと思いました。

## 下馬みどり保育園

2022年度、下馬みどり保育園の保育園経営を以下のように取り組みました。

### 1 事業概要

#### (1) 入所児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7
1歳	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11
2歳	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11
3歳	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
4歳	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
5歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
合計	67	67	67	67	67	67	67	65	65	65	66	66

- ・途中入所で0歳児9名入園を目指していたが、職員の退職があり増やすことができませんでした。1月に傷病休の職員が復帰したので2月に何とか1名入れることができました。
- ・1歳児1名、2歳児1名が10月末で退園になり、待機児童がおらず補充できませんでした。

#### (2) 職員体制

	園長	保育士	栄養士	調理員	看護師	事務	用務員	合計
正規職員	1	12	1					15
パート6H		1		1	1	1		4
パート4H		1						1
パート3H		1					2	2
不定期				1				1
派遣		1						1
合計	1	16	1	2	1	1	2	22

\*嘱託医として坂総合病院小児科と、こう歯科医院に委託しました。

\*1名7月末退職、6月～1月傷病休1名となりました。

\*退職に伴い、今年度新たに用務員2名、看護師を採用しました。仕事の分担や状況について面談等を行い職員が業務に取り組めるようにしました。

#### (3) 保育事業内容



- ① 基本的運営は公定価格に基づいた給付金と多賀城市補助金・利用料収入によります。利用料は延長保育料金、病後児保育料金、入所児童処遇特別加算、障がい児保育事業、給食費となります。給食費については、新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休園となった期間と濃厚接触者に特定された期間の減免を行いました。また、物価高騰対策の補助金、新型コロナウイルス感染症対策の補助金があり、申請しました。
- ② 特別保育事業として病後児保育（多賀城市内1歳から小学校3年生までが対象）は年間のべ27名の利用目標を計画していましたが、年間利用人数は30名となりました。補助金は5,182,000円の実績となりました。
- ③ 特別保育事業の延長保育事業は月平均18時31分以降6名以上の利用人数となり補助金は1,667,000円の実績となりました。
- ④ 特別保育事業の障害児保育事業は、対象児2名で2,328,000円の実績となりました。

#### （4） 設備・環境

- ① 3月16日の地震で給湯配管からの水漏れのため床が浸水しました。その床修繕等（玄関周り、事務室床の張り替え）の工事を行いました。修繕にかかった費用は宮城県の災害復旧工事補助金申請を行いました。
- ② 配管からの水漏れ（坂総合病院の駐車場への水漏れ）2か所あり、修繕を行いました。
- ③ 午睡時の面積の確保のため、ホールにカーテンレール取り付けを行いました。
- ④ 発達に応じた遊具や玩具、備品の購入等行いました。また、子どもがおもちゃを自由に手に取れるような保育室の環境構成の見直しを行いました。
- ⑤ 定期的に園庭の砂を補充しました。また、園庭での遊びを充実させるために職員で学習をすすめ、おもちゃをおく場所等の検討を行いました。用務員の力を借りておもちゃの置き場所を変更し、園庭遊びがしやすくなりました。

## 2. 保育内容

### （1） 保育目標と主な行事

- ① 法人保育理念を实践すべく、子どもの人権を尊重する保育について学び合い、心身の健やかな育ちを保障するように取り組みました。
- ② 安心できる保育者との信頼関係を土台に、基本的な生活、豊かな遊びと人とのかわりを通して、自我を育て仲間と共に育ちあう保育ができるように取り組みました。

### 年間行事予定

月	主な行事	月	主な行事
4月	入園式	10月	運動会・内科健診・歯科健診
5月	親子遠足・内科健診・歯科健診	11月	焼き芋会 ほうねん座鑑賞
6月	クラス懇談会	12月	クリスマス会 ・餅つき

7月	なつまつり	1月	クラス懇談会
8月	お泊り保育（年長）	2月	豆まき ・交通安全教室
9月	交通安全教室	3月	ひな祭り会・卒園式

## (2) 保育方針

- ① 一人ひとりが健康で安全に過ごせるように、日々の健康状態を把握し、必要な配慮ができるようにしました。新型コロナウイルス感染予防については、保護者への協力の周知や、なるべく合同保育の時間を短くしクラスごとの保育を行いました。園内の消毒等行い、感染症予防に努めました。
- ② 子どもの発達を理解できるように、クラス会議で学習に取り組みました。保育内容をクラス、その職員任せにせず、組織的、系統的に学ぶ取り組みを行いました。
- ③ 行事は、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度同様に職員とできることを確認しながら取り組みました。しかし、お泊り保育も行いましたが、当日にコロナ感染が判明し、午睡後は中止とし通常通りのお迎えをお願いしました。
- ④ 子どもの思いに寄り添いながら、どの子ども安心して自分を表現でき、気持ちよく生活できるような援助を職員ができるように、子どもの話をお互いに出し合い実践してきました。
- ⑤ 障がい児保育については、対象児は2名で、4歳児は送迎できない保護者なので定期的に面談を行い、子どもの成長や子育ての悩みを共有してきました。5歳児は就学に向けて関係機関との連携（支給認定会議の出席等）や保護者との面談を行いました。卒園式も単独で所属する4歳児クラスの子どもたちと一緒に行いました。また、発達に困難を抱え配慮が必要な子どもたちについても、職員の子ども理解を深めながら、方針を持って働きかけていけるように取り組みました。保護者面談を通して、来年度に向けての方針も共有しました。

## (3) 安全管理

- ① 安全管理マニュアルを4月の全職会議にて確認し、安全に対する意識を常に持てるようにしていきました。リスクマネジメント会議でヒヤリハット等確認し安全管理に取り組みました。
- ② 事故・けがについて、医療機関を受診する事故は7件でした。けがの内容は、目の打撲、肘内障、歯の打撲でした。6月までに起きた事故は6件だったので、新年度の落ち着いた時期にけがが多いということを経験し、新年度はより安全保育の意識を持つことが必要だと職員間で確認しました。ヒヤリハット等を通して、職員の危険を予期する力量とともに、子ども達へのけが防止への意識付けと身体づくりを意識した保育に取り組みました。今後も引き続き取り組んでいきます。
- ③ 新型コロナウイルス感染症については、園内での感染があり、対策していても防ぎ切れない状況がありました。引き続き、正確な知識を職員間で共有し、感染予防に

取り組んでいきます。

### 3. 保護者支援と連携

- ① 保護者の生活実態や仕事の状況が理解できるように努め、保護者の子育ての思いに寄り添い一緒により良い子育てができるように支援していきました。子ども同士のトラブルで、保護者に不安を持たれたこともありましたが、クラス担任の努力や管理部も一緒に関わりながら取り組んできました。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、懇談会を2回実施できました。保護者間の交流や子どもの成長を共に確認する場として、職員皆で取り組みました。
- ③ 保護者アンケートでは、保育園に対して信頼を示している内容が多くありましたが、職員の対応の不充分さを伝える意見もありました。保護者の意見を真摯に受け止め改善していけるよう、職員間で確認しました。
- ④ 緊急時メールシステムとして「おがスマ」を導入し行事、新型コロナウイルス感染やその他の感染症発生、災害時に活用しました。また、身体測定の結果もおがスマで見ることができるようになりました。

### 4. 職員の研修と評価

- ① 園外研修は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催が多く、保育プラザ等の研修に計画的に参加し基本的な発達を学べるようにしました。また、キャリアアップ研修もオンライン開催で計画的に受講することができました。
- ② 園内研修は、法人保育理念、平和、人権等について、計画に沿って取り組みました。職員会議やクラス会議での学習を位置付け、特にクラス会議では年齢別発達を学ぶことを中心に取り組みました。
- ③ 園内外の自主研修について、職員に周知し、先輩職員と若い職員と一緒に参加し学び合いました。

### 5. 小学校や地域との連携

- ① 感染予防に努めながら、保育実習生を受け入れました。
- ② 地域の乳幼児を対象の「あそぼう会」は、新型コロナウイルス感染予防に努めながら実施しました。参加者は1組だけでした。
- ③ 多賀城市の幼保小連携事業に基づいて実施しました。研修は中止が多く、小学校訪問も学校の感染状況により中止となりました。

### 6. 重点目標のまとめ

- ① 研修や会議での学習や職員間で日常的に子ども姿を伝え合うことを通して、子ども理解や発達について学び、保育理念の実践に取り組めるようにしました。

- ② 職員一人ひとりが年齢発達に応じ系統的に取り組むことができるように、発達の学習に取り組みました。
- ③ マニュアルの研修と共に、事故報告やヒヤリハット事例による研修等を行い、子どもの安全に対する意識を高め、園全体でけがや事故のない保育ができるように取り組みました。
- ④ 新型コロナウイルス感染症やその他の感染症に対して知識を共有し、感染対策に努めました。また、感染が発生した時は、職員との情報共有を図り、対応を一致させてきました。衛生管理については、マニュアルの確認、研修を行い職員間で一致した対応ができるように努めました。
- ⑤ 保護者との信頼関係を築くために、日常の保育の様子や保育園で大切にしていることを伝えることに努めました。子どものトラブルに対しては、担任と管理部が連携し、保育の見直しや保護者対応を行いました。苦情に対しても誠実に対応し、保護者が、安心して子どもを託すことができるようにしました。
- ⑥ 職員一人ひとりが、健康でいきいきと働き続けられるような職場環境をつくっていくために、互いに尊重し合い、十分なコミュニケーションが取れるように取り組みました。また、キャリアパスの研修等を通し経験や立場に応じた役割分担が意識できる取り組みや、会議のやり方を変えて集団的な討議による運営ができるように取り組みました。
- ⑦ 子どもを守る保育者として、社会情勢に目を向け、平和で誰もが安心して生活していくことができる社会をめざし、職場全体で学習を進めながら社会保障運動に取り組みました。特に園内社保は法人社保委員中心に若手職員が社保運動の理解を深め取り組むことができました。「多賀城市よい保育をすすめる会」は新型コロナウイルス感染症の影響で実施しませんでした。

## くさの実保育園

2022年度くさの実保育園の運営を下記のように取り組みました。

子どもの健やかな成長と保護者の就労支援を重点目標とし、4月には坂病院の職員体制の事情から育休を切り上げ復職した保護者のお子さんや育休明けの子どもたちを順次受け入れ、9月には5名の在籍となりました。また、保護者の多胎児の妊娠や出産後の育児を考え、早めの保活を勧め、産休に入る前に地域園への入園が可能になった子や、転職や転居による退園もあり、2022年度は少人数での保育で推移しました。その為正規職員は他園からの保育応援の要請に応じ、パート職員は下馬みどり保育園での研修をすすめました。また、今年度もくさの実保育園の利用希望を提出していても、職場復帰時に地域の保育園の入所が可能になるなど、院内保育所の利用の必要がなくなったお子さんも一定数おりました。坂病院からはコロナ禍による児童福祉施設が休園となった際の職員の子どもの一時的な受け入れが打診され9月に4日間受け入れました。

夜間・休日保育を利用する子どもたちはほぼ固定しており、慣れている子どもたちと職員とで休日も夜間も不安なく過ごせるように対応してきました。

### 1、利用児童数

#### ① 日中園児数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	2	2	3	4	4	5	5	5	4	3	3	3

#### ② 夜間保育のべ人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	1	8	15	14	18	16	19	12	11	16	15	13

#### ③ 休日保育のべ人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	7	12	7	9	7	6	7	5	3	3	3	1

### 2、職員配置

4月から正規職員1名、6時間保育士1名、4時間保育士1名、6時間の保育補助（夜間・休日保育対応）調理員1名、夜間担当保育士1名（週に2日、2時間勤務）の6人で対応してきましたが、7月に予定された職員の入院・手術により、5時間の保育士を採用し7名で日中・休日・夜間の保育にあたってきました。

### 3、保育内容

#### ① 日中保育

- ・入園時にはオリエンテーションと慣らし保育を丁寧に行い、子どもも保護者も安心できるように取り組んできました。
- ・一人ひとりの生活リズムを大切に、個別的な配慮や援助を行いました。睡眠や食事等保護者の悩みや要望を聞きながら、家庭と連携して取り組んできました。

#### ② 夜間保育

- ・年齢差や遊びの興味の違いがある中で、子どもたちの状況を見ながらケガや事故の無いように配慮してきました。また、その子の好きな遊びを用意するなど、夜の時間帯も楽しく過ごせるようにしました。一日の疲れが出てくる19時以降は“お話し会”を行うなど、静かに過ごせるように配慮してきました。

#### ③ 休日保育

- ・年度初めに32日の休日開園日の日程を保護者に知らせました。利用希望者がいない日もありましたが、それ以外の日は開園しました。休日保育のデイリープログラムをこれまでは日中園児と同じ時間で設定していたが、昼食・午睡などは他園から来る子にとっては早い事もあり、30分繰り下げ午前の活動を十分に行えるように見直す事にしました。

### 4、健康

- ・内科、歯科検診は下馬みどり保育園にあわせて実施してきました。
- ・新型コロナウイルス感染予防から登園時の手洗いや検温など、念入りに体調の視診を行いました。
- ・8月、9月、12月に新型コロナウイルス感染症が発症しました。8月は家庭内感染で済みましたが、

9月は園児から職員も感染し、12月は陽性となった園児の保護者から園児間での感染も判明、職

員は濃厚接触者と認定されるなど辛い経験となりました。その前後でも職員家族から陽性者が出

て、職員の感染等はありませんでしたが、感染拡大には繋がらずに済みました。

### 5、安全衛生・環境整備

- ・避難訓練は下馬みどり保育園と共同で実施しました。夜間保育時の被災を想定し、避難の為の懐中

  - 電灯やランタンを購入するなどし、保育を継続するための環境整備に努めました。

- ・採光、換気、冷暖房、湿度の管理を適切に行ってきました。また、感染症対策として玩具や保育

  - 室の清掃に配慮してきました。

## 6、職員研修

- ・職員会議の際には学習も取り入れ職員間の認識が一致するように学んできました。また、救命救急講

  - 習は独自で計画し、消防署の協力をもらい行いました。

- ・園外研修は ZOOM での参加も含め、学んできました。

## 7、坂総合病院との連携

- ・監査対応を坂病院のくさの実保育園担当者（総務）と一緒に行いました。事前資料の準備から一緒に行うことで、くさの実保育園の状況を坂の職員に知ってもらう良い機会となりました。

## 古川くりの木保育園

2022年度、古川くりの木保育園の保育所経営を次の取り組みで行われました。

### 事業規模

#### (1) 入所児数

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	143
1歳	15	15	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	179
2歳	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	190
3歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
4歳	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
5歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
合計	86	86	86	86	87	87	87	87	87	87	87	87	1040

#### (2) 職員体制

	保育士	栄養士	調理員	看護師	園長	事務・用務	合計
正規職員	13	1			1		15
臨時職員	2						2
パート 6.0H	1		1	1		1	4
パート 5.0H	1					1	2
パート 4.0H	5		2				7
パート 2.0H	1						1
合計	23	1	3	1	1	2	31

- ・早番職員が10月中旬に入職しました。調理員の入退職が4～5月にありましたが、補充することができました。

#### (3) 保育事業内容

- ① 基本的運営は、事業計画通り入所児童に基づき運営費と特別事業の補助金・利用料と大崎市独自の補助金（私立保育園運営費補助と障がい児保育補助）、チーム保育推進加算が取得でき、事業運営が行われました。
- ② 特別保育事業として、乳児保育（12名）障害児保育（2名）、一時保育（年間160名）病後児保育（年間30名）、延長保育事業（標準時間—1時間延長児10名、短時間—延長児1名）を行いました。

#### (4) 職員の業務分担と役割

- ① 0歳児1クラス、1歳児1クラス、2歳児1クラス、3歳児1クラス、4、5歳児混合1クラスの5クラスを担当保育士12名で保育を進めました。障害児保育担当1名、



一時保育、病後児担当の職員を配置しました。

- ②一時保育、病後児保育は3名の担当職員と管理部・事務が協力して対応しました。
- ③事務は本部の指導の下、経理・総務業務を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないよう努めることができました。
- ④食育については栄養士が中心になり離乳食の進め方（在園児、一時預かり）、菜園活動、クッキングを保育士とともに取り組みました。
- ⑤保健業務は、看護師が日常の子どもの様子を視診、怪我の応急処置、薬の管理、身長体重測定、健診準備、保健便り、病後児保育など多岐にわたり役割を担い遂行できました。

#### (5) 設備・環境・保育材料について

- ①保育教材などを計画的に購入し、保育内容の充実に努めました。
- ②安全の為細かい補修や園庭の整備、点検、清掃などは用務員を中心に行いました。
- ③業者に依頼し、エアコン内部の清掃を開園以来初めて行いました。
- ④床材で園児の手足にとげが刺さる事案が多数あり、床ワックスを初めて行いました。
- ⑤園庭の環境整備として、築山作り、タイヤを埋めたり、池づくり、園庭に畑を作りました。
- ⑥扉のレールが劣化し、扉がスムーズに開閉しなくなった為、業者に依頼し園内全箇所を取り替えました。
- ⑦物置を駐車場に2つ、園庭に玩具入れの物置を2つ整備しました。

## 2. 保育内容について

### 1) 保育目標と主な行事

- ①法人保育理念をもとに、ひとり一人の気持ちに寄り添い人権を尊重する保育を学び合いました。
- ②保育を通して自我をたくさん出しあい、人とかかわる喜びを感じられるよう保育の中で取り組みました。

#### 年間行事

月	主な行事	月	主な行事
4月	入園式・前期内科健診	10月	運動会・総合避難訓練 後期内科健診
5月	子どもの日祭り・前期歯科検診	11月	やきいも会・不審者訓練 遠足ごっこ
6月	総合避難訓練	12月	クリスマス会 後期歯科検診
7月	夏まつり(子どもと保育者のみ)	1月	餅つき会・後期父母懇談会
8月		2月	節分豆まき会

9月	お楽しみ保育（5歳児）	3月	ひな祭り会・卒園式・修了・進級式、後期父母懇談会
----	-------------	----	--------------------------

## 2) 保育方針

- ①担任と信頼関係を築き、ひとり一人に丁寧に関わり子どもの気持ちを受け止めながら保育を行うことができました。
- ②コロナ禍の中、活動の制限はありましたが、クラスごとに活動をしながら、いろいろな経験を重ねることができました。
- ③集団作りとして幼児組は、2人組、グループ活動などを通して自分の気持ちを伝えたり、相手の思いに耳を傾けながら集団作りに取り組んできました。これからもひとり一人を尊重し、育ちあう保育をしていきたいと思ひます。
- ④行事は、コロナウイルス感染症で休園があり、予定していた前期父母懇談会が中止になりました。後期父母懇談会は全クラス開催することができました。遠足ごっこも11月に延期しました。可能な限り予定していた行事を行いました。保育参加や遊ぼう会は、中止となりました。
- ⑤障害児保育は今年度4歳児1名、5歳児1名の児童が在籍しました。仲間の中で認められながら、友だちと関わる喜びが感じられるよう保育を行ってきました。  
5歳児は、大好きな友だちを支えに自分の気持ちを伝えたり、行事に取り組むことができました。

## 2) 保護者との関わり

- ①コロナウイルスが大流行し、4月に2回臨時休園になりました。新年度始まってすぐだった為、保護者との関係作りが難しかったですが、送迎時に様子を伝えたり、写真を掲示しながらお子さんの様子を伝えてきました。また、コロナウイルス感染症を心配される保護者の方も多く、安心して預けられるよう感染症対策を徹底しました。父母懇談会は後期1回のみとなりましたが、久しぶりの懇談会再開に、子育ての思いを保護者同士が共有する大事な機会となりました。今後も、子ども達の成長を伝え合うことを大切にしていきたいと思ひます。
- ②子育てに不安を感じている保護者や5歳児には個別面談を行うことで、不安を解消し、安心できるよう関わってきました。5歳児の保護者から就学に向けて我が子の発達に不安を感じ、保健師とつながるケースが5件ほどありました。丁寧に関わって悩みや不安が解消されるよう連携してきました。
- ③保護者アンケートを行いました。大多数の世帯が回答を行ってくれ、保育内容や法人で大切にしていることが理解されていきました。写真販売の希望や保育参加の実施を望む声が多く、次年度は保護者の声に応えられるよう計画をしていきます。

### 3) 安全管理

- ①危機管理委員会を年4回設置し、災害・防災・ヒヤリハットについて検討・学習をしました。園内の危険個所を回り、気づいたことを改善し、職員にも伝えてきました。園バスの置き去り事故などもあり、安全計画を立てて終わるのではなく、自ら考えながら行動できるよう、引き続き検討していきます。保護者にも災害時（水害・地震など）の対応を共有していきます。
- ②おがーるシステムを活用し、感染症の情報をすぐ保護者に知らせることができました。
- ③災害対策として、毎月の避難訓練と年1回の不審者対策訓練、散歩時における地震訓練、年1回の水害訓練、年2回の総合避難訓練を実施しました。
- ④不審者対策として、10時～15時の時間帯は玄関の施錠を引き続き行っています。
- ⑤救急救命講習は、コロナの影響で消防士の派遣が中止になりましたが、Web講習を実施しました。

### 4) 職員研修について

自主研修委員会（中堅職員）を中心に、保育環境の学習を行いました。全職員会議で学びながら、園庭整備・保育室の環境整備を整えました。職員一人一人が意識して携わることで、環境を整えたことによる子ども達の変化にも気づき、喜びあうことが出来ました。

法人社保委員を中心に、憲法学習や保育配置基準について職員で学び合ったり、園内掲示して保護者にも伝えることが出来ました。

研修は、キャリアアップ研修、全国保問研・全国合研・大崎保研・仙台保問研・法人研修に参加することができました。

総括会議では、一人一人が発言できるようグループごとに話し合いを持ちました。自分の保育を振り返り、見直す機会になりました。子ども一人一人を大切にする保育を総括の場で確認することが出来ました。今年から総括後に感想を記入してもらい（パート保育士含）、振り返りや学び合うことを大切にしてきました。

### 5) 小中学校や地域との連携

コロナウイルス感染症の為、地域の交流はできませんでした。一時預かり事業を通して、地域のお子さんの子育ての応援を行うことが出来ました。

保育実習生の申し入れはありませんでした。コロナ禍の為、看護実習生・職場体験は中止しました。

小学校の連携では、連絡会で引き継ぎを行い、児童の様子や配慮が必要なお子さんや保護者への対応など学校と伝え合いができました。合わせて保育要録を学校に提出しました。

### 6) 重点目標のまとめ

- ① クラス会議や総括、全職などでも法人の理念や保育方針に基づき、年齢ごとの発達や子どもの捉え方を学んできました。場面記録は、クラス会議やフリー会議でも位置づけ全職員で学ぶことができました。
- ② 年齢ごとに大切にしたい保育を新年度に確認し、その目標に向けて職員一人一人が学び実践しました。前期総括会議は乳児組を7月に設定したことで、課題が明確になり後期に向けて取り組むことができました。
- ③ 全職員が生き生きと働けるよう、職員体制を整えながら職場づくりをしてきました。コロナウイルスが流行し、気持ちを張り詰めながらの就労になりましたが、協力しながら乗り越えることができました。
- ④ 毎月の主任会議や全職員会議で、経営状況を伝え（電気・ガス・水道）、経営に触れ、一緒に考える機会をもつことができました。
- ⑤ 病後児保育事業では、パンフレットを大崎市や福祉プラザに置かせてもらい、事業を知ってもらいました。しかし、コロナウイルスの流行で利用者が減少しました。

## 7) 保健活動について

### 《2022年度 投薬依頼数》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	78	149	158	123	72	133	112	89	127	94	160	245	1540

### 《2022年度 アクシデント件数》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	6	6	9	3	4	9	7	0	9	8	10	13	84

投薬依頼は、風邪による依頼が大半を占めています。昨年度比で336件依頼が減少しましたが、コロナウイルスの臨時休園が複数回あった為です。（休園2回、クラスの一部休園複数）。

保育中のアクシデントについては、咬傷が大半を占めています。前期は1歳児、後期は0歳児の咬傷でした。発達の成長段階に伴いアクシデントが年齢により分かれています。受診をしたケースは、5歳児が手つなぎリズムを行っていた際、右腕をねじりました。受診の結果、骨折と診断されました。コロナ禍で普段していたリズムを控え急に体を動かしたことも要因の一つと考えています。個々の発達や経験を踏まえながら、活動を考えていきたいと思えます。

## 8) 給食・食育活動について

栄養士が中心となり離乳食、アレルギー食（1名）など一人ひとりに丁寧に対応してきました。家庭と食材の確認をしながら丁寧に進め方・与え方・作り方などを一緒に考えて行ってきました。

行事食は毎月1回のお誕生会、七夕会、収穫祭、焼き芋会、クリスマス会、豆まき会、リクエストメニュー（卒園児）、サラダバイキングなどを行いました。

食育活動では、引き続き個人でできるおにぎりづくり、ポップコーン、のりまきなどを行いました。0歳～5歳まで野菜の栽培活動を通して、育て、収穫して食べる工程を楽しみました。年齢ごとに収穫できた野菜を保育室で焼いて見せたり、香りを感じたり、4歳児は、大豆を育てる、5歳児は昨年大豆から味噌ができていく工程も子どもたちと取り組みました。“楽しく食べる”ことを今後も大切にしていきたいと思っております。

### 3. 補助金による事業

#### ①延長保育事業

##### 《2022年度 利用状況》

申込み利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
18：01時点の平均数	6	7	7	7	8	11	19	11	13	10	12	13	10
18：31時点の平均数	2	2	4	4	4	6	7	4	6	4	6	5	5
16：01時点の平均数	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

職員3名で18時以降の延長保育にあたりました。短時間認定の園児は16時まで降園することが多く利用は少なかったです。18時以降のお子さんについては、育児短時間が終了した後から利用が増加しました。

#### ②病後児保育事業

##### 《2022年度 病後児利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	5	4	7	6	2	0	0	3	0	0	3	30

病後児の利用は年間30名でした。昨年比-53で減少しました。コロナの影響が大きく、利用予定だったお子さんがコロナだったというケースも数件あり、受け入れも難しい状況でした。

#### ③一時保育事業

##### 《2022年度 一時保育利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	16	11	11	7	8	3	5	11	10	11	30	37	160

一時保育の利用者数は、延べ160名でした（昨年比-439）。今年から0歳児の受け入れを開始しました。コロナの影響で、利用を控える家庭が多く、併せて待機児童減少もあり、利用者が減少しました。コロナが落ち着いてきた2～3月頃に利用者が増え始めました。

#### ④障害児保育

4歳児1名、5歳児1名の障害児を保育士の加配を行いながら支援しました。保健師・保護者と連携し子どもの姿、目標を共有しながら保育を行ってまいりました。5歳児については、就学相談や発達検査を行いながら、就学に向けて連携しました。

## 岩切たんぼぼ保育園

2022年度、岩切たんぼぼ保育園の経営を次のように取り組みました。

## 1. 事業規模

### (1) 入所児童数

今年度は以下のような受け入れ人数で運営にあたります。新入園児は28名（0歳児8名、1歳児12名、2歳児5名、3歳児2名、4歳児3名）の見込みです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17
2歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
3歳	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
4歳	14	14	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16
5歳	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	17	17
合計	84	84	86	86	88	88	88	88	87	87	87	87

### (2) 職員体制

2022年度は、主任保育士1名、副主任保育士1名、1名新入職員2人を含み以下の体制にて運営してきました。うち1名が12月から傷病扱いとなりました。

	園長	保育士	栄養士	調理員	看護師	事務	用務員	合計
正規職員	1	14	1					16
パート6H		1						1
パート5H		1		1		1		3
パート4H		1		2	1			4
パート3H		1					2	3
パート2H		1						1
合計	1	17	1	3	1	1	2	28

※嘱託医・宮林こどもクリニック（小児科） ひだまりデンタルクリニック（歯科）

### (3) 事業分担

職種	人数	業務内容
園長	1	園全般の管理運営・統括、会計責任者
主任保育士	1	保育全般の把握及び指導、業務管理、保護者支援
クラス担任保育士	11	クラスの保育及び指導計画、日誌などの事務
フリー保育士	2	休暇の代替え(内1人、4H)
特別支援担当保育士	2	特別支援児の支援、援助
延長保育士	2	早番補充・延長保育担当
看護師	1	児童の健康管理、保健指導

栄養士	1	給食全般に関する業務（献立、調理、食育）
調理員	3	給食調理、給食室清掃
事務員	1	事務全般（出納業務・経理・その他の事務）
用務員	2	環境整備、園内外清掃、下膳など
合計	28	

### （3） 保育事業内容

- ① 基本的運営は、公的価格に基づいた委託費、各補助金、利用料（延長保育、主食費・副食費等）によります。利用料金収入は1時間（18:15～19:15）の延長保育料金になります。幼児組の主食・副食代金、未満児組の紙おむつ廃棄代金が入ります。  
今年度は90定員に近づくため、1、2歳児を多く募集し、1歳18名、2歳児15名でスタートしました。また1歳児、2歳児混合クラスを一つ編成し保育してきました。
- ② 特別保育事業は、乳児保育最終的に9名埋まり、特別支援保育5名、そして延長保育は平均7名という実績となりました。

## 2. 保育内容

### （1） 保育目標と主な行事

- ① 児童憲章、保育指針に基づいて、子ども達の心身の健やかな育ちを保障するために取り組みます。「寝る・食べる・遊ぶ」などの基本的な生活を大事にし、あたたかい人との関わりを保育の中心にしてきました。  
職員は子どもの人権を大切にし、一人ひとりの子どもが、自分の思いを十分出せることと、仲間と共に育ちあえる関係を作り、豊かな知的興味と感性を持った子どもに育つように創意と工夫のある保育内容を追求してきました。

### ② 年間行事

月	主な行事	月	主な行事
4	入園式・内科健診	10	運動会 ほうねん座公演
5	保護者懇談会	11	焼き芋会
6	歯科健診 保護者懇談会	12	発表会
7	夏祭り 夕涼み会	1	年長組育児講座・懇談会
8		2	豆まき会
9	運動会総練習	3	ひな祭り会・卒園式

※ お誕生会。避難訓練は毎月行いました。

※ 新型コロナウイルス感染状況をみながら、園庭を開放する予定でしたができませんでした。

### （2） 保育方針

- ① 新型コロナウイルスが終息の見通しが無いところで、子ども達が健康に過ごせるように

前年度同様に、感染対策に気を付けてきました。一年を通して保育士、看護師と連携し保護者の協力をお願いしながら感染症の予防に取り組んできました。子どもの発達に応じて、手洗い、うがい、歯磨きの習慣が定着するように各クラス毎に指導してきました。

- ② 子どもの発達を十分理解し、一年を見通した活動に取り組めるようにしてきました。日常的に子どもの姿を伝えあい、職員全体で一人ひとりの子どもを見ていく視点に立てるようにしてきました。
- ③ 子どもの内面を捉え、どの子も安心して自分を表現でき、気持ちよい生活ができるようにしてきました。また様々なことに意欲的に取り組めるように保育内容について検討し工夫してきました。
- ④ 特別支援保育児は、4歳児クラスに3名、5歳児クラスに2名となりました。そのほかにも個別の援助が必要な子どもがいるので、発達援助と共に、クラスの仲間と育ち合う関係づくりをしてきました。また保護者とも面談重ね、発達支援センターなどにつなげたいお子さんもいましたが、そこまではできませんでした。
- ⑤ 「たべるとは生きること」を基本に、給食職員と担任が連携した食育活動（野菜の栽培・クッキング・栄養指導）に取り組みました。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染予防対策については保護者と協力しながら、治自体、保健所、法人本部と連絡密にし、対応してきました。

### (3) 安全管理

- ① 安全管理マニュアルを全職員で確認し、ヒヤリハット報告を共有して、安全に対する意識を常に持てるようにしてきました。園外保育（散歩）や毎日の登降園時は、交通量の多い道路に面している保育園として、安全への配慮が特に必要となるので、園児、保護者への注意喚起を同時に行ってきました。毎月の避難訓練は様々な想定（浸水、竜巻、不審者、交通事故など）を考え計画実施してきました。マニュアルだけでなく、職員自らも危険予知ができるよう自ら判断し行動できるように研修を重ねてきました。
- ② 安全な生活が送れるように。施設点検を定期的に行い、危険個所の把握、改善に取り組みました。保護者に対しては必要な情報を伝え、園門扉の施錠、服の安全性、靴、玩具、遊具での遊び方など共通の認識で取り組めるようにしてきました。
- ③ 自然災害発生時には、おがすま一斉メールを活用し保護者に情報を発信してきました。

### 3. 保護者支援と連携

- ① 保護者との信頼関係を築けるよう、疑問には丁寧に応えるようにしていきました。生活実態や仕事の状況が理解できるように努め、子育ての思いに寄り添いながらよりよい子育てができるように支援してきました。
- ② 前年度はコロナの関係で保護者懇談会が1から2回のみとなりましたが、今年度は感染対策に気を付けながら、確実に2回を実施してきました。  
懇談会の位置づけとして、子どもの発達や子どもとの関わり方を理解してもらえ、また保護者同士が子育ての困難、楽しいこと情報交換の場として開催しました。保護者から



回答し大きな行事のあとにとったアンケート、保育園の評価としてとらえ、改善点や課題は職員で共有し今後の取り組みに反映するようにはしてきました。

- ③ 園だより、クラスだより、行事の写真の掲示で、園の方針や子どもの様子が保護者に伝わるようにはしてきました。またホームページにも保護者だけでなく地域にむけ保育園の役割が伝わるような定期的に更新したかったのですが、やりきれませんでした。
- ④ 看護師の専門性を生かし、子どもの健康に関する相談などを通じて育児不安が軽減できる支援をしてきました。

#### 4. 職員の研修と評価

- ① 新入職員と共に、ひとり一人の子どもを大切にする保育の意味が捉えられるよう学習を進めてきました。子どもの発達について学び、共通の認識が持てるようにするとともに、職員の不安や疑問に答え、保育に意欲的に取り組めるような環境をつくってきました。

③ キャリアアップ研修を含め、計画的に園内外の研修にどの職員も参加できるようにし、個人の資質を高めるようにはしてきました。学んだことを復命することで、全職員の学びにつなげるようにはしています。また職員みんなで同じ話を聞き共通理解できる場として法人研修や自主研修（保問研・合研）を位置づけ参加を呼びかけてきました。

③年2回の自己評価と保育園評価を計画的に行い、より質の高い保育をめざしてきました。

- ④ パート保育士とクラス保育や園の保育方針を理解してもらうためにも、総括にはできる限り参加できるようにしました。園長と短時間の面談時間をとるようにはして保育理念を共有してきました。

#### 5. 小学校や地域との連携

- ① 地域の子どもの健全な育成を図るため、「岩切子育てネットワーク会議」に参加し、関係機関との連携を深め、ネットワーク主催の行事に参加してきました。また小学校や児童館と連携をとり発達、成長の連続性を図りました。

② コロナが一定終息したら、地域の未満児園児を対象に親子で触れ合う「わらべうた」を中心に「遊ぼうかい」「園庭解放」などを開催しようと考えていましたが、できませんでした。近隣住民とのつながりを大切に、行事や様々な取り組みの際には、チラシ配布しながら紹介もしていこうと考えていました。またコロナウイルスが終息したら、案内をよびかけます。

#### 6. 今年度の重点課題

- ① 開園6年目を迎え、法人理念、保育理念を全職員理解し、計画的に進めていきました。
- ② 子どもの安全に対し危険予知、回避する意識が持てるように、安全マニュアルの確認や、ヒヤリハットの振り返りから、園全体のけがや事故のない保育を進めていきました。
- ③ 職員が行事などの役割分担を通して全体を把握してまとめていく力をつけていくよう

にしました。また職員が主体的に保育に取り組めるように援助していきました。

- ③ 職員一人ひとりが健康で生き生きと働けるような職場関係、風通しの良い職場環境をつくってきました。
- ⑤ 子どもを守る立場で、平和で誰もが安心して生活していくことができるように社会を目指し職場全体で社会情勢を学び、社会保障運動に取り組みます。また地球温暖化について関心持てるようにしていきました。
- ⑦ 90名定員に対し、今年度1,2歳児クラスを作り、未満児を増やしました。84名からのスタートとなりますが、安定した保育園経営を保障するために、あと1~2年程度は、未満児クラスの園児数の確保を計画していきます。また保育園、小規模保育園が増えている中、選ばれる保育園として、保育の質の向上、ホームページの活用等工夫していきたいです。
- ⑧ 保護者と子どもを真ん中にし、信頼関係を大切にし、子育てを楽しんできました。
- ⑨ 昨年度は保護者会と共に「保育署名」に取り組むことが出来ました。公立保育園から受託し、私たちの保育が認められてきているというのを感じる一つです。今後も保護者と共に子育てを楽しめるようにしていきます。

1. 施設運営状況

【施設利用登録者数推移表】

2023年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
女	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

【施設延べ利用者数推移表】

(単位：人)

人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
278	253	289	275	283	282	242	280	254	242	256	279	3,213

【定員稼働率】(定員 20 名)

(単位：%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
66.19	57.50	65.68	65.48	61.52	64.09	57.62	63.64	63.50	60.50	64.00	60.65	62.51

【就労支援事業支援費収入推移表】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,784	1,630	1,858	1,768	1,820	1,821	1,561	1,796	1,628	1,575	1,665	1,812	20,723

2. 施設運営について

(1) 職員配置状況：管理者兼サービス管理責任者 (1) 職業指導員 (3)  
生活指導員 (1)

(2) 利用者様状況：療育手帳B (13名)、精神保健手帳 (1名)

(3) 収支状況：22年度内では利府支援学校卒業生や在宅のかたの利用希望、退所者が居なかったため利用登録人数に増減は無かった。22年中旬頃から年末にかけて利用者、家族、職員のコロナ感染者が発生し利用人数が減少しました。家庭の事情により2か月近く休まれた利用者もおり大きく減収となりました。

【2022年度PC解体・清掃業務、他売上推移表】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
308	248	305	371	373	291	278	425	285	247	250	298	3,685

【2022年度月別工賃支給額】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
183	167	190	180	187	186	160	185	167	154	167	183	2,115

【22年度平均工賃】

(年度工賃合計) 2,115,348円 ÷ (年度利用人数) 167人 = (平均工賃) 12,667円

### 3. 就労支援事業について

- (1) 清掃事業について、通常通り清掃を行っていたがコロナ感染者が発生したため何度か清掃中止した。感染者が回復してからは移動しての除草作業や洗車・車内清掃にも従事していただきました。
- (2) PC解体事業では解体個数が安定せずバラつきが目立っていたので改善が必要なところを確認し、青南商事とも調整して年度末頃に台数の向上が見られた。除草作業や洗車作業を実施した時は人員を割くことになるので処理台数が減少しました。

#### 【年間処理台数】

(単位：台)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
741	758	759	690	822	888	712	621	574	623	657	886	8,731

- (3) 施設外作業は田子のまち、宮城野の里の除草作業、園芸作業、送迎車の洗車・車内清掃を行い、サテライト史は除草作業を行い、田子のまちショートの清掃・ワックスがけを実施しています。

### 4. 2022年度行事について

7月	昼食会	健診後 職員6名 利用者14名
10月	個別支援計画面談	利用者14名
1月	昼食会・バーベキュー	職員6名 利用者14名
3月	個別支援計画面談	利用者14名

### 5. 2022年度総括

年度初めでは増減は無く14名での稼働となった。相談支援員と打ち合わせ等での席で利用者の情報提供を求め、何度か話しはあったが中途での利用者獲得はありませんでした。利府支援学校からの実習生受け入れでは前期2名の生徒さんを受け入れ、3年生2名となり、後期実習では受け入れ無しとなり、23年度の利用希望もありませんでした。

清掃事業について、風の音清掃での初旬は通常と同じスケジュールで作業を進めることが出来ていたが、中旬に解体事業での職員と利用者さんがコロナに感染したことにより清掃を一時休止しました。その後は清掃を休止することは無かったが、時々本人は陰性でも家族が陽性だったため濃厚接触で休む利用者もいました外部の清掃では各事業所の除草・剪定、送迎車の洗車・車内清掃、田子ショートの清掃・ワックスがけを実施しています。

PC解体事業では、事業所内での解体作業は特に変更等は無く継続して進めている。中旬から年末にかけてコロナ感染者が発生し、事業所内感染も確認されたがごく一部での感染で収まり、その後は収束しました。時期によって外部作業に入る利用者も居たので解体台数にバラつきがあったが、作業人数が多い時でも解体台数が少ない時も見られましたので、原因と改善個所の確認を行うよう指示を行いました。外部作業が落ち着いた頃に作業工程の

見直しを行い、青南商事とも相談して年度末近くに手順変更をしたところ処理台数を以前の水準にすることが出来ました。

行事等について、コロナ禍と事業所内での感染者発生ということもあり実施数は少なかったです。行事ゼロでは楽しみも無くモチベーションが維持出来ないと判断し、簡単に健診後にお弁当を注文しての食事会、事業所でのバーベキューを実施しました。特にバーベキューでは普段はなかなかしないことなので喜ばれました。

コロナ感染対策について、感染対策として朝・夕仙台を通過して電車通勤している職員 1 名の時差出勤の指示、事業所内のマスク着用、手摺りやドアノブ等の次亜塩素酸による消毒を午前・午後の 2 回行って感染対策を継続しています。

2022 年度も利用者の確保を目指してきたが増員とはならなかった。利用者獲得に繋がらない原因について精査し、改善していく必要があります。

実習の受け入れについて、現在のところは支援学校からは連絡は来ていない。支援学校の進路指導の先生に連絡を行い、実習生の受け入れと次年度の新規利用者さん獲得に繋がるよう動いていきます。

23 年度は 14 名でのスタート予定となっており、職員 1 名が 3 月末で退職となるので 5 名での支援体制の予定です。ただ、職員 1 名の体調が思わしくなく、今までは 6 名体制だったので他の職員がサポートして対応出来ていた。5 名体制となる 4 月以降はサポートが難しくなっています。直近の課題として、職員の従事環境が悪く、職員が職員のサポートを行い、その負担を負って自分の業務に支障が出ています。職員 1 人 1 人に余裕が無いと利用者支援にも充実した対応を行えなくなるため、早急に検討と改善が必要です。新規外部作業の情報提供についても入ってきているが、職員配置が難しいため見送りとしています。現在の状況の改善を優先し、状況を見つつ時期を判断しながら利用者さんの獲得、就労支援作業の計画を行っていきます。収入改善についても次年度は平均工賃 1 万 5 千円の実績になるよう進めていき、24 年度から基本報酬平均工賃 1 万 5 千円以上の区分になるよう就労収入の向上も図っていきます。

## 仙台市宮城野児童館

《計画内容》	《実施内容》
<b>1. 管理運営の基本方針</b>	
<p>◎遊びを通して豊かな人間形成をめざし、地域のすべての子ども達の健全育成を図る地域活動の促進に力を注ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染予防策の継続と改善</li> <li>・ 子どもが主人公の遊びの場づくり</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しく安全な児童クラブ活動</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域や関係機関と連携した子育て支援</li> <li>・ 子育てに関わる相談場所に</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育てや児童文化の発信基地へ</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアの力も活かした健全育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常に、最新の情報をもとに感染予防の観点から実施対象や実施方法を検討し、行事を実施してきた。結果的に、感染者が出ても家庭内感染に留まり大きな感染拡大を防ぐことに繋がった。</li> <li>・ 安全に配慮しながら遊びの自由を可能な限り認め、「子ども会議」「みんなの声」などを通して子どもたちの要望をくみ取り、子どもたち自身が成就感と満足感が得られるクラブ運営に努めてきた。同時に、職員が中心となって、新しい企画にも取り組み、子どもたちに新たな体験との出会いの場を作ってきた。</li> <li>・ 職員が危機管理意識を高め、安全な見守りができるように、職員会議、臨時打ち合わせ等を通じて具体的な事例研修を重ねてきた。</li> <li>・ 自由来館の規制が緩和されたことに合わせ、乳幼児親子対象の行事を増やし、安心・安全な遊び場を提供してきたことで来館者も増えてきた。</li> <li>・ 法人を同じくする保育園の保育士や保健師・歯科衛生士を招いての子育て相談が好評だった。</li> <li>・ 小学校・保育所との情報交換会を行い、連携を深めた。小学校とは常時情報交換を行った。</li> <li>・ わらべ歌やお手玉、あやとりやおはじき、コマなど古くから伝わる子どもの遊びを職員が一緒になって楽しんだ。正月行事として外部講師を招いて行ったけん玉教室は、子どもたちに大きなブームを起し、検定により技が向上した。</li> <li>・ コロナで途切れていたボランティアの方々と連絡を取り直し、囲碁・読み聞かせ・ジュ</li> </ul>

	<p>ニアリーダーなどの企画を通して、子どもたちに変化と楽しさを与えることができた。</p>
--	--

## 2. 利用者サービスの向上

<p>◎地域住民に親しまれ、愛される子育て支援の拠点として利用者サービスの向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の要望に応えるサービスの質の向上</li> <li>・地域特性を生かしたサービス</li> <li>・個人情報の保護</li> <li>・広報活動の充実</li> <li>・安心して利用できるための衛生管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大状況を考慮しながら、乳幼児親子支援、ボランティアの受け入れ、地域交流、中高校生の活動支援と可能な中で要望に沿って、サービス向上を図ってきた。</li> <li>・「個人情報に関する基本方針」を策定し、定期的に職員倫理として確認するとともに、常時館内に掲示した。</li> <li>・知りえた個人情報は、施錠ロッカーでの保管、定めた期日での情報の廃棄を徹底した。</li> <li>・館だよりを学校・地域に広く配布したりホームページや館の掲示板、パンフレットを分かりやすくしたりして、情報発信に努めた。乳幼児については、独自のチラシやメール配信でも広報を行った。</li> <li>・感染予防対策として、換気・マスク・手洗い・消毒を繰り返し呼びかけた。児童クラブ登録児童には、加えて、3蜜回避の指導と黙食の徹底を行った。備品や消耗品の充実に努めた。</li> <li>・保護者会でも繰り返し、児童館の感染対策を説明して協力を求め、感染拡大を防げた。</li> <li>・感染症と嘔吐処理について、全職員で研修を行った。</li> </ul>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートの実施と検討</li> <li>・苦情対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童クラブ保護者と幼児クラブ保護者に年度末アンケートを行った。「利用しての満足度」「職員の対応」について、たいへん好評価をいただいた。自由記述も全て記載し、課題となる点は職員会議で検討し、登録説明会・保護者会で反省事項や具体的改善案を報告し理解を求めた。すぐに改善できるものは、年度内に実施した。</li> <li>・「苦情解決制度についてのお知らせ」を作成し、館内に常時掲示している。幸い苦情は寄せられなかったが、保護者からの要望や相談には、その都度丁寧に対応し、職員間でも共有し館の運営改善に生かしてきた。</li> </ul>
<h3>3. 人材確保・育成</h3>	
<p>◎職責を自覚し、子どもに寄り添い、子どもと共感できるような理想と情熱を持ち、子ども一人一人に応じた継続的支援ができる人材の確保と育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館の役割と児童理解に関する研修の充実</li> <li>・職員個人の得意分野や個性を生かすとともに専門職としての力量を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議、幼児部会、児童クラブ担当者会を通して、児童館の役割と児童理解について研修を深めた。特に「子どもの発見・子どもの理解」に時間をかけて話し合った。</li> <li>・保育士さんと合同の話し合いを持ち、乳幼児への対応を学び、活動に改善を加えていった。</li> <li>・特別支援コーディネーター研修、ヤングケアラー研修、放課後児童支援員研修、仙台市の職員研修等を積極的に活用し、受講者が伝講することで全体のスキルアップを図った。</li> <li>・職員の得意分野や意向も生かして職務分担を細分化し、責任をもって職務に当たるとともに、各々が達成感を持てるように工夫した。パート職員も含め各自がリーダーシップが発揮できるようにするとともに、今後への継承を考え複数で役割を担当し教え合える体制を作った。</li> <li>・一人一人が、自分の考えを表明しやすい風通しの良い職場作りに努め、自己有用感をもって館の運営にあたったことで、多彩な取り組</li> </ul>



	みが生まれた。
<b>4. 健全育成事業</b>	
<p>◎子どもの成長発達を促し、可能性を引き出す日常の遊び・活動を充実させる。子どもの表現の場を積極的に設ける。</p> <p>1、乳幼児と保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児親子の仲間づくり</li> <li>・幼児クラブの定期開催</li> </ul> <p>2、小学生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に遊びを選んで友達と共に遊ぶ場の提供</li> </ul> <p>3、中学・高校生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由で開放感のある居場所作り</li> <li>・成人ボランティアの力を借りての健全育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの幼児クラブ行事とお話会、子育てサロンを定期的で開催し、地域の公園も活用して遊びの場を提供した。自由来館の規制が緩和されるにつれて多くの乳幼児が来館し楽しく遊んでいた。その姿を見ながら、母親同士がグループになって楽しそうに話している姿も見られた。 (＊詳しくは、子育て家庭支援にも記載)</li> <li>・土曜日の自由来館が解禁になって以降は、毎回利用する児童も見られた。土曜日開催の囲碁教室や子ども映画、ジュニアリーダーと遊ぼうなども定例化となり、普段よりも余裕のある空間で楽しくすごしていた。児童クラブの子どもたちとの交流も見られた。 (詳しくは、放課後児童健全育成事業にも記載)</li> <li>・かつて児童館を利用していた中高生を含むジュニアリーダーが月1回で「ジュニアリーダーと遊ぼう」という企画を実施し、小学生と楽しく接してくれた。</li> <li>・ボランティアの方と職員がリードして、毎週土曜日に囲碁教室を継続した。大会での成果も出ている。教室に長く通っている中高生も継続して参加し、楽しんでいる。</li> </ul>
<b>5. 子育て家庭支援</b>	

<p>◎乳幼児が楽しく安全に遊べる場を提供し、保護者の気持ちに沿った子育て交流の場を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てサロン</li> </ul> <p>・ 随時申し込み制の乳幼児クラブ ひよこクラブ（1歳児） きらきらクラブ（2・3歳児）</p> <p>・ お話しポケット</p> <p>・ ハンドベルサークル</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月の館便りの他にも、ミニチラシやメール配信で、次の月の乳幼児行事を案内したことで、毎回楽しみにしてくれている親子が多かった。</li> <li>・ 職員も積極的に親子に話しかけ、話しやすい雰囲気づくりに努めた。</li> <li>・ 同じ法人の保育所の保育士や栄養士・歯科衛生士にも協力をもらい、遊びながら子育ての相談に応える機会を作った。和やかな中でいろいろな話ができたと好評だった。</li> <li>・ 公園遊びや季節の行事、名札づくりや手形足形づくりなどを通して、乳幼児の楽しい遊び場を提供できた。利用者の要望を聞き、ベビーフォトやベビーヨガ、リトミックなど外部講師の力を借りた行事も行うことができた。</li> <li>・ 読み聞かせボランティアの方が毎月様々な工夫をして歌や手遊びも交え、幼児を楽しませてくれた。長期休業中には、児童クラブでもお話を実施してもらった。</li> <li>・ 児童館を会場に練習を行い、クリスマス会ではきれいな音楽を聞かせてくれた。</li> </ul>
--	--

## 6. 地域交流推進

<p>◎子どもたちと地域の出会いの場となり、地域に愛される児童館をめざし、地域の子を児童館運営に活かしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度より2年間「宮城野区自転車モデル事業」の地域指定を受け、推進会議に参加した。低学年対象に自転車安全教室を実施し、安全な利用への意識を高めることができた。</li> <li>・ 今年も実際に高齢者福祉施設を訪問することは叶わなかったが、新たに地域の施設に普段の児童館の様子を紹介したり運動会の演技を踊ったりしたVTRとプレゼントを届けた。</li> </ul>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台工業高等学校との交流</li>   <li>・児童館職員の保育園訪問</li>   <li>・東宮城野マイスクール児童館との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原町商店会の要請を受け、今年は児童主体で計画的に七夕飾りを作成し、近隣の児童館とともに飾ってもらった。</li> <li>・地域の方からの申し出で、リトミックを実施し好評だった。次年度は定例化を図る。</li> <li>・かねてより交流のある建築倶楽部の生徒さんが、図書室で使えるベンチを新たに3台作って届けてくれた。児童館からも座って読書をする児童の写真やお礼の手紙を届けた。この活動は高校のHPでも紹介させた。また、授業の実習を兼ねて、分室のコンセントを更新してもらった。</li> <li>・3施設ではあったが、実際に活動の様子を見学することができた。新入生の受け入れをスムーズに行う点でも参考になった。</li> <li>・東宮城野マイスクール児童館からのお誘いを受け、卸町の町おこし企画の中で今年も商業施設と一緒に絵を展示してもらうことができた。</li> </ul>
---	---

## 7. 放課後児童健全育成事業

<p>◎家庭が留守になる子どもたちの居場所として「児童クラブ」が果たす役割の重要性に応えるべく、安心・安全快適な「生活の場」を保障していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で遊びを決め、自由に遊ぶ、友達と仲よく遊ぶ場として機能させる。</li>   <li>・「子ども会議」「上学年子ども委員会」を定例化し、子どもたちの意見表明権の具現化と児童館運営参加をめざす。</li>   <li>・投書箱「みんなの声」を設置し、本やおもちゃ、行事などへの子どもたちの要望や相談事を真摯に取り上げ館運営に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防に配慮しつつ、可能な限りの活動を実施し、子どもたちの生活に変化と楽しさを与える活動を進めてきた。</li> <li>・館のルールはなるべく押し付けにならないように子ども達自身で見直させてきた。子ども会議の議題として取り上げ決まったことを掲示し、意識付けを図ったことで、定着が進んできた。</li> <li>・児童館の行事や問題を自分事としてとらえ、話し合い、自分たちにできることを決めていった。上学年企画行事として、冬にお楽しみ会が行われ、子どもボランティアが活躍した。</li> <li>・みんなの声に寄せられたリクエストに応え、ボードゲームやカードゲーム、野球やサッカー</li> </ul>
---	--

<遊び全般>

- ・本館サテライトとの年2回のクラス替え
- ・要支援児の支援の在り方の検討
- ・外遊びの充実
- ・読書環境の充実
- ・スポーツ行事の充実
- ・館のきまりと危険防止の呼びかけ
- ・職員自身の遊びの幅を広げる

<サテライト室の整備と遊具の充実>

<定例行事>

- ・児童館で作ってみよう

一の道具を新規購入した。

- ・子どもたちの悩み事も寄せられ、職員間の児童理解に生かすことができた。
- ・友達関係が広がるように、子どもたちの交友関係等も考慮しながらクラス替えを行った。
- ・支援の必要な児童については、複数の担当職員を決め職員会議で意識して取り上げ、対応の成果や課題、その成長をみんなで検討した。
- ・対象児が友達と仲よく遊べるようにやりたいことを丁寧に聞き出したり、言葉を補って周りに伝えたりした。会議の度に、情報交換を行った。
- ・宮城野小に加え長期休業中は東宮城野小の校庭も使わせてもらい、可能な限り外遊びを行った。子ども達の要望を受けグローブやバット、サッカーボールやゴールネット等も補充した。
- ・年に2回「図書アンケート」をとり、職員のお勧めと合わせ、約50冊の本を購入した。寄贈も多く、分室を含め充実させることができた。
- ・ニュースポーツとの出会いとして、バッコを紹介し、大会も行い、大いに盛り上がった。
- ・1年生の利用開始日に児童館巡りを持ち、各部屋の使い方や守ってほしいことを説明した。
- ・危険な遊び方については随時声がけをし、安全面も考慮し1年生だけで遊ぶ時間も設定した。
- ・雨天時外遊びができない代わりに、職員が交代で「雨天時プログラム」として室内遊びを企画し実施した。ほかの職員も補助に回り、遊びの交流にもなった。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・手芸クラブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館と同様に、本やゲーム・おもちゃの充実を図った。本やおもちゃは定期的に入れ替えを行った。また、修繕の要望も整備係へ行って環境整備を行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもヨガ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土粘土、絵画、短歌、工作のほか、時期に合わせて七夕飾り、鬼の面や卒業生・新入生へのプレゼント作りなど多様な活動を行った。人気が高く2回・3回に分けて実施もした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・草花係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年児童の活動の場づくりとして、今年度初めて定例化して実施した。男女を問わず希望が多く上学年優先で活動した。自分で計画したものを熱心に作り、作品を保護者会で紹介した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙飛行機、アサガオ、ランドセルや自分で遊べるおもちゃ作りなど低学年児でも楽しめるものになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども映画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より定例行事となり、四季に合わせて4回行った。体を動かすのが気持ちよいと、希望者が広がった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・囲碁教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に合わせて花を植え、児童館の外周を飾ったり、野菜を収穫したりした。児童も水やりなどの世話をを行い収穫物はみんなで持ち帰った。</li> </ul>
<p>&lt;企画行事&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業を中心に、カメやメダカ・ヌマエビの世話係を募集した。水槽の掃除など責任をもって行った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度のアンケートで選んだ作品を、土曜日に月1回のペースで鑑賞した。自由来館の児童も一緒に楽しむことができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週土曜日に、初心者から有段者まで、ボランティアの方の指導の下継続することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ行事</li> </ul>	
<p>&lt;保護者、学校等との連携&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生歓迎行事、七夕飾りづくりや正月けん玉教室、お面を作ったの豆まきや大掃除など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、保育所との連絡会</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめへの対応</li> </ul>	<p>季節の行事を今年も楽しんだ。特にけん玉教室では名人からいろいろな技のコツを教わり、大きなブームになった。昨年のコマ同様、遊びの文化を伝える意味からも意義あるものとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部業者の協力を得て、夏休みに「健康教室」を行った。腸の働きや規則正しい生活をする事など興味深く聞くことができた。</li> <li>・児童図書会社の方を講師に、子どもの本の講座を職員研修もかねて行った。図書担当職員が雨の日などに読み聞かせを行う形に発展した。</li> <li>・支援を要する児童を中心として小学校との情報交換会を行った。また、問題が起こった時には、随時担任とも情報交換を行った。小学校で見せる別な面を知ったり、新たな対応の参考になったりした。情報は全職員で共有した。</li> <li>・4つの保育所・幼稚園と情報交換を行った。新入生の受け入れ準備の参考となった。</li> <li>・いじめが心配される事案について、小学校との情報交換を行った。</li> </ul>
--	---

## 8. 事故防止・防犯防災対策

<p>◎利用者の生命を預かる使命感を職員が共有し、安全安心の場作りに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止、防犯防災</li> <li>・事故、災害、緊急時への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止、防犯防災担当職員を選任し、マニュアルを見直した。新年度計画会と職員会議で安全安心マニュアルの読み合わせを行った。</li> <li>・普段から放送を静かに聞くことを意識付けし、対象や想定を変えた避難訓練を、月1回程度継続して行った。</li> <li>・仙台市防災協会の方から、防災VRを使って備えの大切さを学ぶことができた。</li> <li>・危険性があつた事案も含め、日々の日誌に記録し、重大なものについてはヒヤリハットに</li> </ul>
---	--

	<p>記録して回覧した。緊急を要するものは、「館長連絡」や臨時打ち合わせで共有し改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部屋の使い方と遊び方のルールを随時見直し、表示と説明をわかりやすく工夫した。</li> <li>・けがや体調不良を保護者に正確に伝えるため、症状ごとの保健記録カードを有効に活用した。</li> <li>・一斉メール配信への全員登録を徹底した。</li> <li>・児童への不審者避難訓練を行った。</li> <li>・外遊び前の熱中症計を使った警戒管理、遊戯室での大型扇風機利用、給水の励行等、熱中症対策を継続した。</li> </ul>
<p><b>9. 施設維持管理</b></p>	
<p>◎職員による日常の管理と外部委託による専門的管理を組み合わせ、利用者にとって安全で快適な施設維持を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に安全に留意し、不具合への迅速な対応</li> <li>・業者と協力して、施設の維持管理</li> <li>・節電、節水、ごみの減量に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の点検と月始め木曜日の安全点検を徹底した。今年度は点検箇所ごとに担当者を決め点検箇所を細分化したことで、気づいたところの補修や注意喚起を迅速に行うことができた。現在、第2分室の修繕について、推進課へ連絡をし、業者との調整を行っている。</li> <li>・館内の整頓に気を配り、不要物を撤去し子ども動線に物を置かない等の対策を行った。</li> <li>・枝や根が張り出した校庭の樹木について小学校に報告し、すぐに撤去してもらった。</li> <li>・警備保障会社（セコム）と業務委託をし、夜間・休館日の施設管理の徹底を図った。</li> <li>・明光ビルサービスに毎朝の清掃と年2回の窓掃除と床のワックスがけを委託して、清潔な環境を維持してきた。</li> <li>・清掃担当者と連絡を密にし、作業していて気づいた点を教えてもらい、早期の対応に努めた。</li> <li>・子ども達にエコキャラクターやエコな取り組みアイデアを募集して、子ども達への意識付けを行った。不要な電灯をこまめに</li> </ul>

	<p>消灯したりしたことで、冬の期間の電力使用量を約 25%節電できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に電気水道の節約とごみ持ち帰りの呼びかけを掲示物で行い、意識づけを行った。</li> <li>・リサイクル箱を置き、紙のリサイクルを徹底した。集めた紙類は、計量して地域の再生紙業者へ搬入した。封筒や裏紙の再利用を増やした。</li> <li>・紙コップの利用削減のためコップ持参を勧め、減らした数をエコポイントとして集計し、ポイントでおもちゃが買える取り組みを行った。</li> <li>・「たまきさんサロン」を活用し宮城野環境事務所の方からリサイクルと分別の大切さを教わった。</li> </ul>
<p><b>10. 年間行事実績</b></p>	<p>別紙「年間行事実績表」の通り</p>
<p><b>11. 従業員の配置及び勤務体</b></p>	<p>職員 14 名  常勤 8 時間勤務 7 名（館長含む）  早番 8:45～ 遅番 10:20～  6 時間パート 1 名  早番 10:30～ 遅番 13:20～  5 時間パート 3 名  早番 10:30～ 遅番 14:20～  4 時間パート 3 名  早番 13:30～ 遅番 15:20～  常勤と 6・5 時間パートは児童クラブ担当と幼児クラブ担当に分かれる  長期休業中はアルバイトを 3～4 名を加える</p>